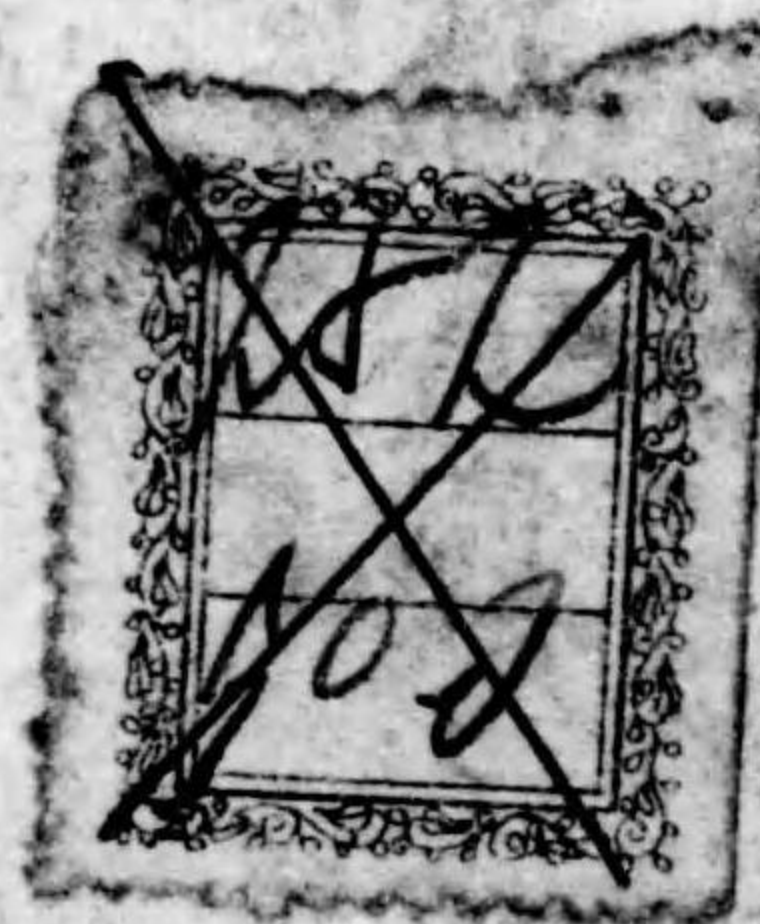
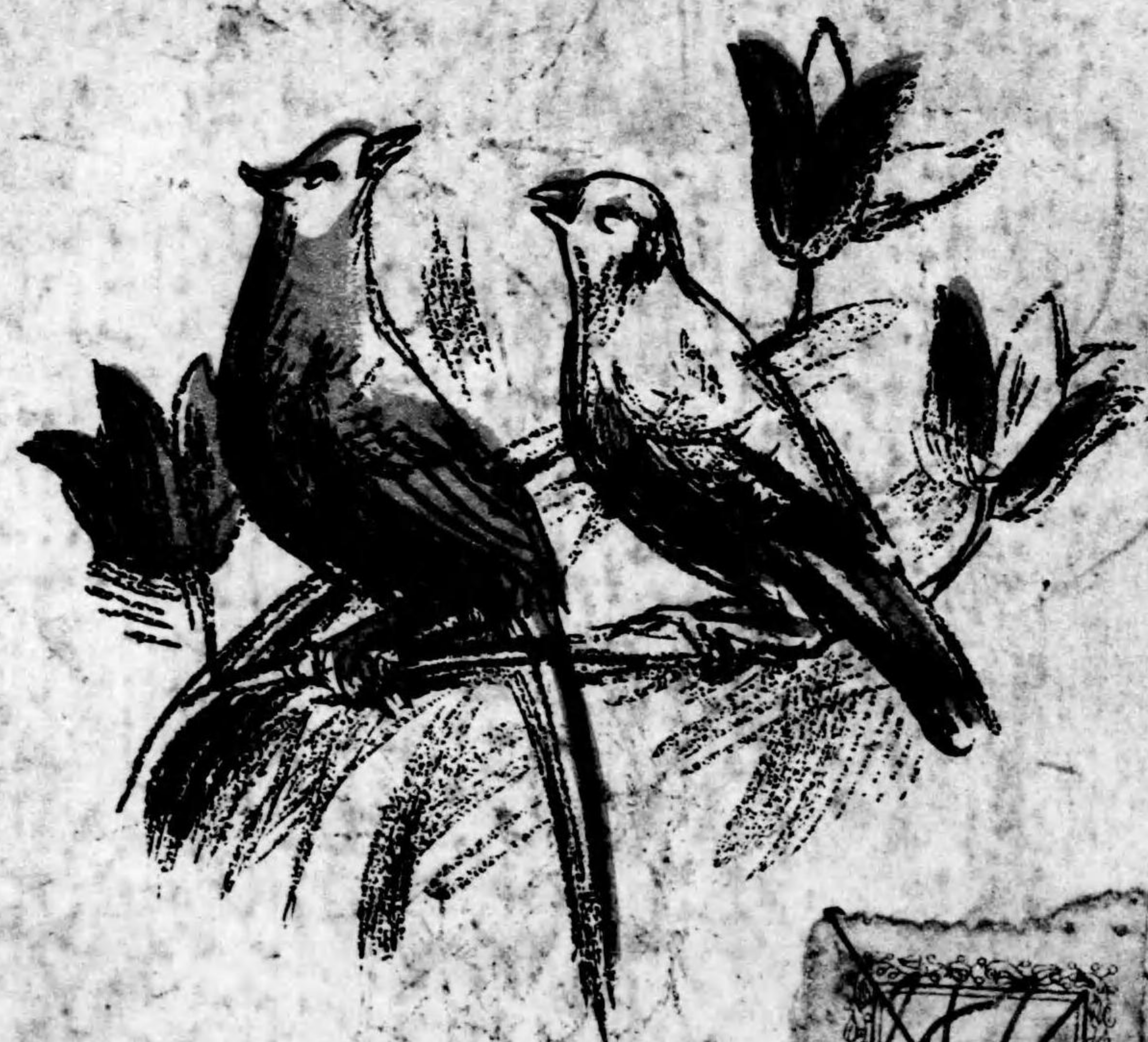


比較宗教
坊天
とんさ
のんさ理

内証話

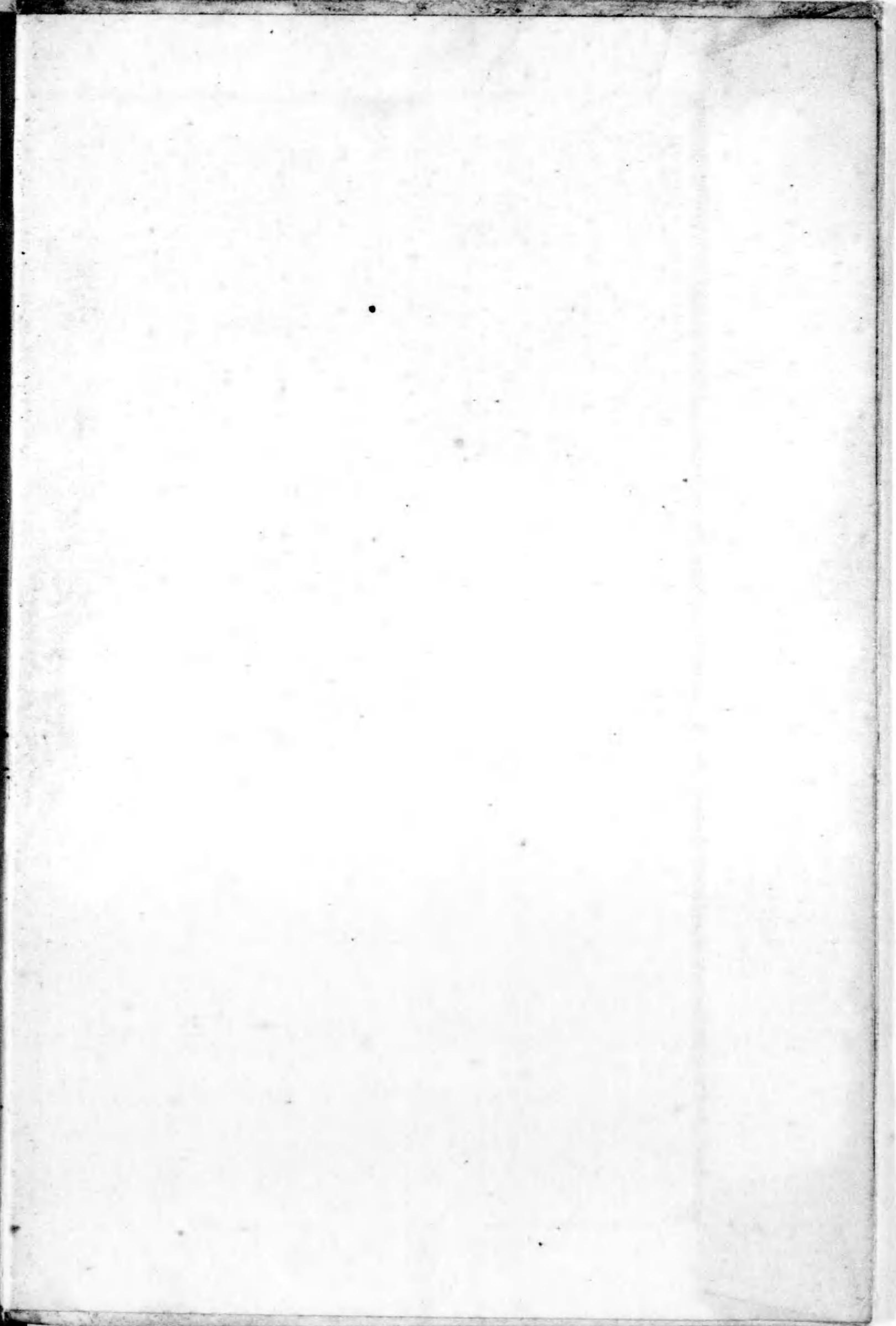
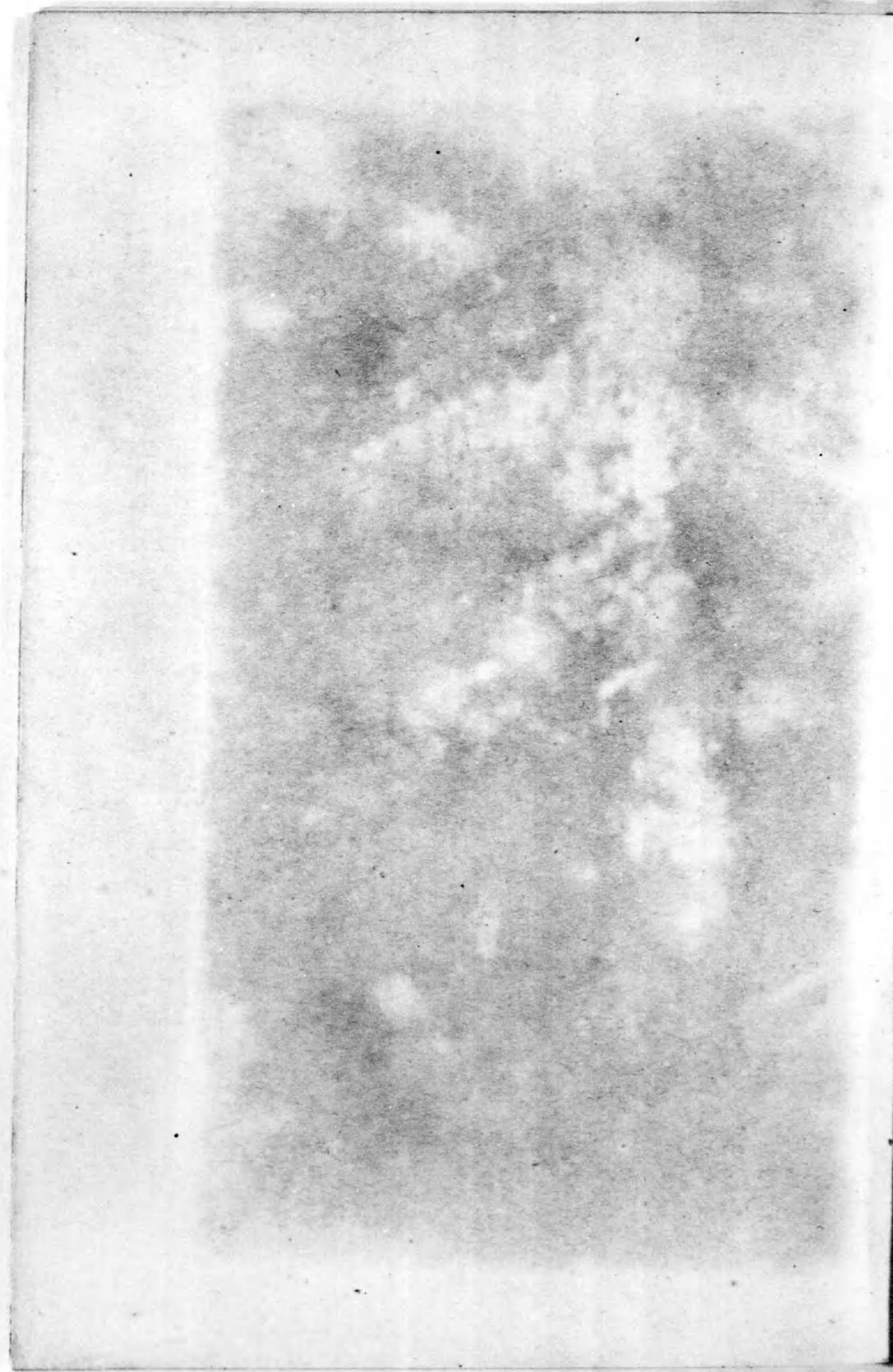


高岡青原著



始





特 100
119



比 較 宗 教

坊 天 理 寺 内 證 話
の ん さ 理 天

大 正
10 7. 25
内 交

序

「左の頬を打たれたら徐に右の頬を向けよ」と教へた基督の言を、
基督教徒がよく守り、「顔に唾せられたら其の乾くのを待て」と教へ
た釋迦の言を、佛教徒が守つたら、あの三千八百五十億圓餘を費し
て一千二百十萬餘の死傷者を出したと言ふ、大戦争も起らなかつた
であらう。併しながら現代の人は、基督や釋迦の言ふたやうな、氣
永い人の良いことを言ふてゐられないやうです。神を信ぜざること
が、社會改造の近道であるかのやうに、又宗教は國民を毒する阿片
である。と言ふやうな極端なことを言ふマルクスを有り難がる人が

だん／＼多くなる傾向があるやうぢやありませんか。こう言ふ時代に我が國の宗教家にして果して生きた人々に對して應分の精神的助力を與へ、轉迷開悟、暗愚を誨しへ、煩悶を慰するは勿論、更に進んでは向上の一路を指示して、勇猛驀進するを促がすことを、日常の勤めと心得てゐる者はあるでせうか。そりや、現代の宗教家は、宗教家の日常の勤は、是れだ、とは心得て居るに違ひないと思ひます。心得否知つてゐるだけあつて、汚い紛糾した内情を信仰の名に包んで外表を美化し、飽くまで良い子となつて、世を渡らんとする精神界の詐偽師と化してゐるやうな者の、勘くないので證明してゐるぢやありませんか、併し、是れだつたら心得て居てくれぬ方が、

どの位世の中の爲だか知れませぬ。實に開口呆然、嘆息の言葉もありませぬ。

この現代のやうな社會思想の病態時機に於て、三界の大導師、いや、何々教の教師だ、と言ふものからして、こんなやうでは怡度一家に主宰たる可き者が、大酒飲みのぐうたらでは、其の家族に誠めの利かぬやうに、我が國民の信仰の上に幾多の缺陷と龜裂の生じて、此の缺陷と龜裂の間から、丹波の山奥から大本教の様なもの飛び出して、渴した大衆は、彼れか、此れかと其の清濁を擇ぶ暇がないやうに、新しいものと言へば、直ちに是れに歸依したが、其の正邪を甄別せざる風潮があるのも無理はないと思ひます。殊に元來

宗教信仰は、社會人心の已み難い要求です。此に於て、何か機會があれば、迷信噪信が流行するものです。

凡そ人間の天性は、自由に發達させれば、のびくと成長しますが、其反對に自由のない處には、精神の鬱屈が生ずるものであります。苛酷極まる言論制裁が行はれ、新聞檢閲に多忙を極めたり、學校内部まで思想上の密偵が舞ひ込めやうな社會で、人心がのびくと成生する譯はない。のびくしないものは、或ほ噪信となり、狂熱となり、危激となり、挑發的、反抗的になる。今日の日本に少しも此の如き徵候がないと、誰か斷言するものがあるでせうか。

此の社會思想の病態を取除く第一歩は、果して何々でせう。矢張、

佛教や、天理教が「外より蔽はんとする法網の力は、内より燃え上る信仰の王國たる宗教の力に及ばざるや遠し」とか「外からの大砲は防げるが、内からの大砲はどうもならん」とか言ふて斷定を下してゐる、内に潜在せる良心は、唯だ宗教に培はれし眞の信仰之れあるが爲めにのみ確保されるのです。どうしても思想の病態を取除く根本要義は、眞に生きた活宗教によつて、社會人心の鬱屈を除くにあるのです。それで我が國現代の既成宗教で、まあ、誰れが何んと言ふても、今日の人心に多く食い入つてゐるものは、先づ佛教と天理教とでありませう。彼等は今日、欠伸の連續を喫煙の輪に吹いて已むを得ざる世の成行と濟して、貴重なるタイムを浪費してゐるの秋

ではありますまい彼等の教祖も、彼等の教理も、そう現代から失墜したと思はずに、よろしく彼等が、常に他人に教へる慚愧、懺悔の念を自ら振り立て、大に奮起して教祖や、教理を生かしてはどうです、彼等の教祖は、精進の世界は妙なる世界であることを教へてゐるぢやありませんか。彼等に現代我が國の人心は、大に要求してゐるものがあるのです。それは彼等の「私は神や佛に抱かれて、貧しい生活の中に悦んでゐます。私は神や佛を頼つて行きます。それで神や佛は私を強いものにしてくれます。私は鐵棒を持つて、更に社會に突進します」とこの根強い信仰を以て一つやつて見せて貰ひ度いと言ふことです。

私は淺學菲才、且つ文辭になれず、識者の指彈は初めから私の期する所、けれども、私は多少信ずる所ありて、今之れを、社會不安精神噪動、宗教感化の失墜の今日、世の識者の座右に呈します。

此の宗教家の赤裸々なる内證話の中から、教界革新の急務を見留められ、併せて、社會人心の鬱屈を晴らす何にものかに觸るあれば、私は心から喜ばすには居られません。

高岡青原白

目次

○現代思想と社會問題……………一
○生活問題と布教傳道……………四二
○寺院と教會 教師の僧侶……………八七
○兩教の觀たる婦人問題……………一二五
○大本教の批判と天啓者の價值……………一三六
○世界改造と宗教……………一七三
○比較宗教と天理教の天啓……………二二一
○釋迦とミキ子……………二五五
○神樂歌と經文……………三〇七

天 さうですね、随分物價によつては暴落したものがあつたやうです。併し、これもある部分らしいです、餘り吾々の臺所へは偉い樂だと云ふ程の影響はありませぬやうですからね。

坊 さうらしいです、暴落したの何のと云ふた所で、元々騰つたのが間違ひで、云はゞ順に還るのでせうよ。あの戦争で世界的に各所に物價の逼迫を來してからは遽に需要を増し、それに伴つて買ひさへすれば儲かつたので、其の需要が信の消費者の需要でなうて、中繼の商人が吾れ勝に買ひ煽つて、釣り上げたのが未曾有の暴騰となり、相場以外の相場を作つたやうです。から、暴騰の有る所、暴落の來るのは自然ですわね、私はさう

坊 思ひますよ。さうでせう、併し、此財界の動搖によつて社會に色々の不祥事が續出してゐるやうですね。

天 随分此頃は、生産の短縮、工場の休止、扱ては閉鎖を斷行するものが續出するので、泣くにも泣かれぬ失業者も随分あると云ふことです、殊に氣の毒なのは、店員又は會社員の所謂サラリーメン（月給取）の首になつたので、其の解職が大抵辭職の態の好い形式によつて居ると、之等の人達は相當教育もあるので、下級労働者のやうにがや／＼大聲揚げて泣き喚くと云つたことも出來ないので、比較的世間に知れず、其筋でも調査を

坊

するやうなことも無く其儘ではゐますが、實際泣くに泣かれず
ちツと堪へて居る處は泣くにも増した苦しさを、中には「青服
労働者のことだと世間は矢蓋しく騒ぎ立てるが、吾々腰辨階級
には誰れも眼を呉れ手がない」つて、ブツクサ言ふてゐる者も
あるらしいですが、大に同情すべきことですね。

さやうです。併し、此頃不思議な現象は一時成金だとか、何ん
とかよく新聞などに彼等の豪奢な生活を謳歌してゐました、あ
の所謂成金連中の中から、自殺者の頻々として出てゐるぢやあ
りませんか、大阪邊は激いやうですね。

天

左様、さうです、随分やるやうです。併し、金で贏ちえた後

天 坊

等の生活は、何んど單純で平凡でせう、金が出来ると、女色を
漁る、自動車を買ふ、邸を買ふ、家を新築する、分りもしない
骨董を買ふ、中によつほど心掛のいい男が、寄附をするので
す。併し、物質上の生活などはいくら、金をかけても直ぐ盡さ
て了ひ、金で自由になる藝妓などを弄んでもすぐ飽きの來るも
のらしいですからね。

御尤です。御互にこんな経験はないでせう。ハハ、ハ、ハ、
さうですね。併し、浮世とは至言ぢやありませんか。景氣が好
ければ好いで。ストライキが起る。サボタージュが起りますし
不景氣ならば不景氣で、失業問題が起る、何れにしましても勞

坊

働問題は、人間に附いて廻る一大難問題ですね。さうしてあの此前迄鼻息の却々荒らかつた、成金連中の中から自殺者を續出するつて。激變も亦随分激ひぢやないですか。

こりや、却々看過し難い社會的現象だと考へますね。併し、醫學者は、自殺も一種の傳染性を有つてゐると云ふやうですが、果してさうですならば、愈々以て憂ふべき事柄ではムリですまいか。云ふまでもなくです、自殺にも多くの種類はあるやうですが、概するに生の苦痛を免るべき、最後の手段として採るもので、特に我國に於て其數が非常に多いと云ふのは、生に對する執着心の比較的少いと同時に、封建時代における生命の價

天

値を軽く視る遺風が、今尙人の心を去らない爲めであらうと思ふのです。さうして是等は、國民道德の改造を念と致しますもの。潜心研究せねばならぬ重大問題であります、中にも財界の變動に伴ひます事業の失敗により、死を以て責任の解除を期せやうとするの傾向のありますのは、最も講究せねばならぬ事であらうと思はれますね。

勿論さやうですね。私も同感です。私は自殺は責任の解除ではなくして、卑怯極まる回避だと云ひたいです、さやうぢやありませんか。死だからつて何んで責任が解除できるでせう。ね寧ろ家族親戚友人社會全體に、一層の迷惑を興ふるに過ぎないぢ

やありませんか。さうでせう、眞に他人に與へた迷惑に對して責任の感を抱くものは、一生自ら苦しんで努力奮闘、悪い所は改正して其の負ふた責任の幾分なりとも、之れを果さねばならぬ筈で、自分が死んでさへ仕舞へば、それで萬事が帳消になると考へるほど、無責任無恥な考へ方はないので、此の死以て罪を謝すといふのは、舊幕時代の誤れる道德觀念でして今だにこれが人心を去らない限り、社會の健全な發達、國家の隆盛は到底期することは出来ませぬ。こんなことは安燈全盛時代に流行つたもので、現代の電燈の下ぢややるべきことぢやないんですね。ハ、ハ、ハ。

坊

そりや、さうですとも、それで私は、自殺者ほど責任觀念の微弱なものを證するものはないと思ふのです。そして自殺は、最も大きな利己主義の發露であり、死によつて獨り人生の苦痛から脱却やうとする、極端なる無責任の行爲であると思ひます。これは要する所、畢竟殺人は、罪惡であると同じ程度において、自己を殺すことも、亦罪惡であるといふ道德觀念が、全然缺けてゐるか、若くは極めて微弱であるの致す所でありまして、自殺者自身の平素の精神修養の如何に、貧弱であるかを示すものでせうね。亦同時に之に對する世間の道德的制裁が、如何に薄弱であるかを證明するものでせうね。なんと貴兄さうぢやあり

ませんか。

天 さやうですとも、貴兄。さう致しますと、茲に於てか健全な人生觀の樹立といふ事が、最も大切なる問題となつて來るのですね。

坊 さうです。此死して罪を謝すと云ふ時代錯誤の舊道徳を根本的にそれこそ解除しましてね。

天 併し、社會と云ふものは色々です。今度の財界動亂で、一生の大難に出逢ふて、今の話の通り自殺をやらかす者もあると思へば、亦同じ大難に出逢ふた某有力者は、日夜懊惱苦悶の結果思ひ餘つて桃山の御陵に參拜して。彼所は御承知でせうが、

銀砂の大徑盡くる處、そこに大帝の御神靈が在しますのですが、其御靈に潛伏して、惟れば維新の鴻業日清日露の兩役、いかばかり御宸襟を悩ませ給ふた事でありませう。草莽の微臣、畏れ多い事ではあるが、叡慮の程を推測し奉れば、我身の大難の如き何でもない事であると、迷夢遽に覺めて、心鏡真如の月のやうに冴えたのです。それから其人、家に歸つて之れを知人に話しまして、商道の危機に處すべき道は、御陵前の思索にあると宣傳してゐる人もあるのです。之は誠に結構な話です。心頭滅却すれば火尙寒しで、慾の皮が突張つて迷ひに迷ひ抜いて居る人達には、早速實行して貰らひ度いものです。

坊

左様です。社會は仰る通り、實に走馬燈のやうに、昨日の成金は今日の乞食、世は様々ですね。かうして社會は、刻々に危険化して行くのかと思ひますと、實に怖ろしいことですね。御尤です。

天 坊

併し、今日のこの人心に動搖と危険を來す原因は、色々あるやうですが、まあ其の直接原因は、物價騰貴、イヤ物價暴落が招く生活上の不安が、主要なる原因でせう。是れを根本的に撲滅することは、却々容易なことぢやありません。

天

そらさうでせう、眞に是等に對する救済を徹底せしめやうとすることはね。それで私は思ふのです。此の人心の不安は、物價

坊

の騰貴イヤ暴落が主要な原因でなくして、人心の騰貴又は暴落が、根本の原因をなして居りはすまいかと、ねさうでせう、それに基因して近頃喧しく言はれてゐる所の自由とか平等とか言ふ思想も、兎角時代の勢だと思ふのです。これは力強い流れです。徒らに之を堰め止めやうとすることは、却て大きな害を來すものと考へますので、私は之を防止ぐとか、撲滅するとかいふやうな考へを以たず、其れよりも之を正當に理解し、公平に批判するだけの力を養ふことに努力せなければならぬと思ふのです。

さうです。さうなければなりませんね。こゝに於て、宗教の

天

必要を見留めるのですね。

さうですとも、茲に於て眞の現代に適合した、健全なる新人生觀の樹立が、大に必要するのです。それで私は私の信じます天理教は、凡ての方面に亘つて、舊人生觀を打破して、新人生觀を樹立して居る、新しい現代に適はしい宗教であると信じます上から、私は將來、此天理教主義の普及の爲め、大に努力しましたならば自然此問題の解決も出来るものだと信じてゐるのです。

坊

御説の通り、お互信仰の普及より徹底した救済の道はありませぬね。併し、貴兄の御宗派も、此頃は却々の御發展です。

天

いや、恐れ入ります。それは天理教も神道各派に比べましては、何んの遜色もないやうですが、佛教に較べたら、未だ相撲にはなりません。其の數に於いても、其の規模に於いても、又人物の上からも、未だ／＼私の方は駄目です。何分、貴兄、開教未だ八十餘年ですからね。幼稚なものです。

坊

いやさうぢやありません。開教八十餘年にして、かやうな驚くべき大發展をした宗教は、未だ世界宗教史上に餘り例のない事で、私等の方でも、色々の興味を以て、此頃御教を研究して、教義がよく時世に順應して居ること、組織が甘く出来て居ることには、感心してゐる人も多いやうです。私もね、昨年

一寸大和の本部を拜観して驚きました。偉大ものですね。恐らく熱にかけては、今日の既成宗教上日本一だと思ひましたよ。却々たいしたものですね。

天 どう致しまして、まだ是れからですよ。併し、私は世の中の人
が、眞の宗教的自覺と云ふ精神的基礎の上に立たない限りは、
未だく精神上並に物質上種々の問題が起るであらうと思ふ
のですかね。

坊 そりや私も同感ですよ。現にですね。近頃世の識者が、一切の
問題を經濟上物質上から解決して、宗教的信仰のやうな精神
的基礎を加へることを好まない傾向があるやうですから。

天 さうです。併し、それは不徹底なる宗教の弊を考へるからでせ
う。いや、之は考へ物ですね。

坊 外來の思想には色んなものがありますね。貴兄、御承知でせう
が、近頃有名なあのラッセルは、吾々の生活における最善なる
事柄は、創造的な衝動の内部から發生するどころの藝術愛、及
び思想などであるといふ見方から、自由は政治的財貨のうちの
最良なものであるが。併し、それが唯一の最善ではないと言つ
て居りますが、私は、これは自由をあまり、狹義にあまりに物
質的に制限したものであるだけではなくして、自由そのもの、
精神的乃至人格的意義を逸した解釋であると思ふのです。若し

天

自由がラッセルのいふやうに、單に政治的な若しくは經濟的な條件によつてのみ獲得し得られるものでありますならば、それは言ふまでもなく、物質的なものであるに相違ないので、若し自由が果して物質的なものであるならば、そはたとへ政治的財貨の最良なものとしても、何故にそれが最良の財貨であるか疑問であると思ふのです。

そりやさうですわね。私達は寧ろ人生は決して物質には眞の満足。眞の自由を齎すものではないことを云ふのですわね。さうでせう、現に日本の社會に於ても、貴族富豪資本家は決して幸福な生活をして居りませぬ。是れは精神的の満足がないからで

坊 天 坊

す。眞の自由が與へられてゐないからです。此精神の満足からして、物質の満足も、富の分配も、資本家労働者の調和も、實現し得べきであると思はれますわね。

そりや、さうなくつてはならんことだと思ひます。

時に貴兄の方の教では、此の問題をどう云ふ風に、見てゐらつしやるのですか。

さうですね。私の方では、眞に徹底せる自由平等主義を實現致しますには、個人が自己の罪惡を自覺して懺悔するがやうに、國際的懺悔が起らねばならぬと思ひます。即ち絶對の大悲に融和せられ、攝取せらるゝのですね。親鸞聖人は、慈悲の文字を

坊天

専ら如來にのみ用ひて、吾人は小慈小悲もなき身に於て有情利益は思ふまじと告白せられてゐます。此徹底的平等主義に依つてデモクラシイの眞髓を把み得るのです。親鸞聖人が人間善惡根機の利鈍にも拘らず、唯如來の誓願の下に、四海同胞を説き、凡聖逆謗齊廻入如衆水入海一味と説かれた如き、釋尊の眞精神を復興せしめたものであるのです。

成る程。

近頃思想統一と云ふことが唱へられますが。之れは木に竹を接ぐがやうな不自然な立法的強制でありますから、何の益もないのみならずです。各自の自由を勦絶される恐れがあります。之

坊天

れに反しまして、デモクラシイの思想は、或は各自の自由に放任して、遂に收拾することのできぬ憾があると思ひます。然るに一切の善惡を廻入して自由平等ならしめると同時に同一佛子として悲愍する大悲に依つて、同一鹹味の眞如門に融和する同信兄弟と云ふ統一が自然に實現されるのであります。爰に於て世界主義も、アリストクラシイも、デモクラシイも、眞個に融和した大調和を實現することが出来るのです。

いかに。

併し、かく申せば國家の主張など、不可能になりはすまいかと云ふ者があるかも知れませぬ。然しそれは、惡平等に墮するも

ので、即ち相對界の人生に於きましては、自己主張を捨てる事の出来ない罪惡の人生なる事を自覺して絶對慈悲の下に慚悔すべきであります。各自の主張をし利益をも要求せなければならぬことを自覺して、そして同時に、他人の立場をも、理解することになるやうになる所に國家として主張すべきことを主張し、世界の平和を妨げずに個人として要求すべきことを要求致しまして、社會の秩序を紊亂致さないものであります。それで私は眞に文明の轉機は根本的に宗教的自覺以外に何物をも意味せないと思ふのです。これ又現代思想の最大缺陷を救ふものであると信ずるのです。

天 坊

はい、左様かよく解りました。成程ね。併し、私の方とは、貴兄の方の天理教は、新進な宗派ですから、随分變つてゐませうね。一つ承つて見たいものです。

天

はい、左様です。私の方では教理に、「身上は神の貸物借物で心一つは我が理」と云ふことがあるのです。此の理に従ひますれば、人間は先天的に精神上の自由を與へられてゐるので、即ち善を考へる自由も與へられて居れば、惡を考へる自由も與へられてゐるのです。又た信仰の自由も、不信仰の自由も與へられて居りますれば、更らに愛情の自由も、憎惡の自由も。與へられてありますやうに、精神上には無限絶對の自由を與へられ

てゐるのです。けれども肉體並に物質上の自由は、其うでないのです。或る一つの約束の下に、有限相對的に許されてゐるに過ぎないのです。其の自然の約束とは、人の爲めに善事をなすと云ふことです。例へば國家とか、社會とか乃至他人の爲めとか云ふ利他的勞働であります。それで眞の自由と云ふものは、何う致しましても、善をなすと云ふ自由より外ないのです。云ひ換へますれば、善を成す事其の事に於てのみ絶對の自由が與へられてゐるのであります。例へば國家の利益の爲めに、又社會の利益の爲めに、幾ら働らいたとしても、誰も制止するものはないでせう。そのやうに、凡て善事即ち同情とか親切とかを致

天 坊

す場合には、何人も苦情を云ふ權利もなければ。若し云つたからつて、其れを顧みる必要もないのです。これが天理教で云ふ肉體の自由の大略ですが。

成程。

それから物質上の自由も、是れと同じことですが。併しこれは各個人の魂の因縁によつて、其の自由の範圍は、一定してゐませぬが、善を行ふ爲めに、眞の勤勉努力したならば、結果何人も皆同一の物質上眞の自由を得る事が出来るのです。尙それに天理教では、他人の權利並に自由意志を尊重するのです。其れに向つては、「どうせい此うせい、こら云はん、こら云へん云は

天 坊

ん云へんの理を聞き分けるなら何かの事も鮮か」と教祖は教へてあるのです。従つて一切の生活は、其の人自身の責任であります。即ち善をなすも悪をなすも、其れから生ずる結果は、其の當事者が刈り取らなければなりません。そして其れがたとひ悪い結果であつても、人に其れに向つて何も不平を云ふ權利はないのであります。

いかにも。

例へば信仰の自由ですが。人は如何なる宗教をも、信ずる自由を有つてゐます。たとへ其れが迷信でありましても、下等の宗教であつても、第三者が其れを止むる權利はないですわ。

坊

法に觸れぬかぎりはね。けれども宗教は恰度食物のやうに、下等の宗教には、下等の宗教だけ其れに依つて受くる利益も少なく、高等の宗教には高等の宗教だけ其れに依つて受くる利益も大きいわけです。けれども無信仰には、其れに依つて受くる何等の利益もないのであります。之れと同一の原理に因つて、人間は自己保存の必要上、勢ひ悪を捨て、善を撰まずにはゐられなくなるものです。人間の進歩は其處にあるのであると信じます。けれども此處に一つ注意しなければならぬことは、自由と我儘との區別です。

それをどう見てゐられるのです。

天

それは世の人は往々此の二つを混同視してゐますやうですけれども、二者の間には大なる相違のあることを知らねばなりません。即ち自由とは、責任を自覚した合理的な生活であり、我儘とは責任を自覚しない不合理的精神であります。

坊

いかにも。

天

此の二つの誤解は單なる教養の乏しい下層社會ばかりではないので、誠に知識を専門の對照と致して居ります、思想家の間には往々發見するのです。さう云ふ人達は、自由と云へば直ちに我儘を聯想するやうです。此の聯想から色々の誤つた生活を生むのです。

天 坊

さうですね。いかにも。

それで天理教の自由主義は、要するに人間生活の内容を廣め深

め高め強める爲めに、神から與へられたる吾々人類の特權です。

吾々は其の與へられたる自由を亂用し、若しくは、局限して却

つて厚い天意に反く様なことがあつてはなりません。益々與へ

られたる自由を。利用して眞實の自己を實現することに努めな

ければなりません。この眞實の自然の自己の囚れてない實現が

天理教の自由主義です。それから天理教ではね。

「高山に育つる木も谷底に育つる木も皆おなじこと。」「雄松雌松

のへだてはない。」

と。此の人類の平等化を教へられて、即ち人權に先天的の差別を附せず、眞の努力の結果は、何人も皆同一の結果に到達することが出来ると致します、自由平等主義の如き、男女同権主義の如き、これは他に見ることの出来ぬ説だと思ひますよ。併し、天理教は人類の平等化を教へますが。今日あの喧しい一派の社會主義とは大違ひですよ。あの一派の社會主義のやうに、人為的に現實の階級を破壊し、貴族も平民も富豪も貧民も打破して、一丸とせうとするのではないのです。云ひ換へますと、有るものから奪つて有ないものに與へ、そして形式的に、全人類を平等化せやうとするのではないのです。天理教の平等主義は

天 坊 天 坊

今日は人間と人間との間にある所の階級の區別は、元來人間と人間との人格的相違にありますことを自覺せしめ、長い間の努力の後、其の人格を平等化し、其の結果として全人類の運命を平等化せんとするにありますが。即ち之は、今日一部の過激なる社會主義のやうに一時的ではなく、彼のやうに皮相的ではなく、更らに永久的でして、更らに一層根本的なのです。いかにも現代的で、そして精神的に説かれるのですね。それに天理教は平民的で陽氣な宗教ですよ。どうもさうらしいですね。さうですよ。深窓に育つたお姫様のやうな宗教と違つて、禮儀

坊

とか作法とか云ふものに縛られて、少しも天真を發揮することの出来ないやうなことは少しもないのです。まア天理教は、百姓娘の宗教でせうかね。最う誰に氣兼ね遠慮も要りませず。天地に向つて張り上げられる丈の聲を張り上げて、歌ひつ舞ひつ天真を發揮する自由の宗教ですよ。

さうですかね。私も現代並に將來の宗教は、これではなくてはならぬと考へます。どうしても現代並に未來の宗教は、平民的であつさりした所謂、樂天主義の要素がなくては、民衆に食ひ入ることは出来ないと思ふのですよ。此の點については、佛敎のやうな人間性の自然を殺してゐる陰氣な宗教ではいかない。又

天

た武士は食はねど高揚子と云ふやうな、高踏的偽善的な宗教ではいかないと思ふのです。私は腹が空いたら腹が空いたと云へば良い。用があつたら用があると云へば良いのである。何も氣兼遠慮は要らぬぢやないか、此の主義が好きですがね。私はこれに大きな眞理があると思ふのです。

併し、誰れでもそれは良いことだと思ひますが。さらば實行と云ふことになるよ、却々六かしいものですよ。現に天理教では教祖は、「追從輕薄之れ嫌ひ」「氣兼遠慮は少しも要らん」と仰せられてあるんですが。其の教を信じてある、天理教徒は近頃其の教の裏を個人的に或は社會的に、然も巧妙にやる者が多い

やうで困るのですからね。本来の天理教は、小さくなつて周囲の事情を憚りながら低聲微歌するやうな宗教ぢやないんですけどね。

坊 左様か、大いに鐘や太鼓を叩いて陽氣にやればよろしいのにね。併し、随分鐘や太鼓で踊つてゐるやうぢやありませんか。

天 そりや、貴兄。儀式的否形式では皆やつてゐますが。私の云ふのは眞の精神的に。

坊 やれんものですかね。

天 眞の天理教を信じたとすれば。何んな事にも不平や泣事を云はず、何事も顔の皺を延ばして、三歳兒のやうに天真爛漫な陽氣

な生活を行ふことが出来るのですけどもね。陽氣は自由の姿でありますから。

坊

そら或はさうかも知れませぬ。そら甘く行かぬのは、是れ迄の日本人の通弊でせうよ。私はさう思ふのです。さうでせうね。貴兄、今日の日本人を見ますと、多少に其の面貌に自由の影が映して來かゝつたやうです。けれども其れ以前の日本人の顔を見ますと殆んど自由と云ふものを知らない、貧乏地味に歪んだ顔をしてゐますわね。

天 貴兄も随分、口が悪いですね。

坊 さうぢやありませんか。これで日本人に、天真爛漫な所謂陽氣

な生活のなかつた、何よりの證據ぢやありませんか。けれども私わたくしは思ふのです。之これは主しゅとして、佛教ぶつぎょうや儒教じゅうぎょうの影響えいぎょうを受け、た以來いらいの日本人にほんじんの顔かほであると思ふのです。其れ以前いぜんの日本人にほんじん即ち純粹じゅういの大和思想やまとしきょうに生きてゐた頃の日本人にほんじんは、全く天真爛漫てんしんらんまんな自由じゆうな思想しきょうと自由じゆうの生活せいかくわつをもつてゐたものだと思ふので、それで私わたくしは常に將來しやうらいの日本佛敎にほんぶつぎょうは、大にこゝに着眼ちやくけんせねばならぬと云ふことを主張しゅちやうするのです。

天

そこになりますと、本來ほんらいの天理教てんりきやうは良いんですがね。申し上げた通りとほ。天理教てんりきやうは一面いめんから見ますれば、此この日本傳來にほんでんらいの天真爛漫てんしんらんまんな生活せいかくわつの復活ふくわつと見ることに出來ますと共に他たの一面いめんから見

坊

すれば、全人類ぜんじんるいを思想しきょうの牢獄らうごくから自由じゆうの天地てんちへ解放かいほうする宗教しゆきやうで實じつに現代げんたい及び將來しやうらいに適合てきあひしたものだと思ふのです。

天

お互たがひの教きやうに致いたしましても、教祖きやうそ其そのの方かたは立派りつぱな教きやうを布ふかれてはありますけれどもね。左様さやうですよ。一體たいい經文きやうもんでも、聖典せいてんでもこれらは教きやうへの根源こんげんをなすものでありますことは申まをす迄までもないことですが。これを直ただちに日常にちじやうの様々さまざまな行爲かうゐの上に活用くわつようさせるといふ事は、甚だ六ヶ敷はなはい事ことですね。經文きやうもんの意味いみや、聖典せいてんの内容ないようは充分じゅうぶんに理解りかいし納得なっどくすることは出來でましても、それはこれを日常にちじやうの行爲かうゐに實行じつぎやうするより甚だ容易はなはなことですからね。

坊 御尤です。それで願はくばです。三界の導師と云ふ否、貴兄の方では。

天 さうですね、お助け人衆、否、天理教々師ですね。

坊 何んでもよろしいか、兎角。其の任に當つてゐる教師や僧侶や

牧師達は、それらの教へを自らよく噛んで消化して、そして此

の實社會に活用が出来るものにして、貰ひたいものです。い

やさうせねばならぬですね。

天 そらさうですが、併し、却々それは無理な注文ですよ。さうで

せう。ね貴兄、貴兄の方はどうか知りませぬが、私の方ではど

うも今に未だ何かへけ、舊式な弊風が吹き廻つて困るのです

坊

よ今日普通の青年は教界の青年よりは比較にならぬ程自由思想を抱いてゐるでせう。それに人生の意義及び價値を人に教ゆる宗教家が却つて社會の人間より教へられつゝあるやうな奇異な現象を呈しつゝあるのですからね。

天

其の矛盾なら貴兄の方ばかりではムリますまい。私の方なんか、貴兄の方より、より以上でせうよ。

天

さうですかね。さう致しますと、此の矛盾は何處の教界にもある頑固なる保守的精神の結果だと斷定してもよいんですね。

坊

實に情ないことです。

天

それでね。社會の人も却々今日の宗教家の態度に注意してゐる

天 坊

と見へましてね。何日ぞやも、或る新聞に「如何に宗教屋が」、
宗教屋なんて、最初から随分嚴ひぢやありませんか。

左様です、まあ、お聞きなさい「如何に宗教屋が、終日口をす
くして、佛の教へや基督の教へを説いた所が、それが誰れの口
からでも洩れることは同じ事であつて、昔の教へ其の儘の模倣
的の生氣のないものであつて見れば、却つて今日の人間には厭
はれはするとも信仰する氣などは到底出ない、寧ろそんな事な
ら説かない方が氣がきいてゐる」つてね。天理教も矢張點々で
すよ。随分嚴ひでせう。

坊

嚴ひです。併し、さうですよ。私は是れはよく現代の宗教家

坊 天

いや宗教家の眞情を云ひ表した言葉だと思ひます。さうぢやあ
りませぬか、今日の我が國の僧侶に付て考へて見ましても、他
宗のことは知りませぬかね。

大同小異ですよ。

彼等の其の多くは自分の生活に重きを置いて、オアかうして居
れば當分生活には困らないからといふ調子で自分の天職は餓ゑ
ても盡瘁し、如何に身は粉碎し、天地は轉覆しても國家の爲め、
人生の爲めに此の信仰だけは授けなければならぬといふ熱が
ないぢやありませんか。さう云はれたつて至言、御尤ですと
より外答がないやうに思はれますね。

天

さうですね。併し、果してそれだと致しますと、此の思想の動搖した現代に國民をして速に其心靈の眼を開かしめ、何物か確乎不動の信念の上に、其人格を築かしめねばならぬと云ふ意味の御趣旨から宗教家に頼られた當局者其人へ對しても申譯がな

坊

そりやさうでせうか、併し、現代のあらゆる階級の中で宗教家達は未だく優しの方ですよ。

天

或はさうかも知れませぬね。

生活問題と布教傳道

坊

只今の御説は、そりや勿論御尤だと思ひますが。併し、全然

この世智辛い現代から超越して、眞に各教祖のやうに救濟の聖業に没頭して、獻身的に社會奉仕することの出来る眞の宗教家は果して全國に何程あるでありませうか、今日の世の中に自分

は眞の宗教家なりと行ひ澄して居ることが出来たならば。昔に於ては、「法師は木の片の如し」とまで侮蔑されてゐた宗教家も、今日では甚だ幸福者だと云へるのでありますが、併し、幸か不幸か霞を吸ふ仙人でない限り、草や木を食ふて生をつなぐ仙人でないかぎり、宗教家と云つても血の通ふてゐる、一個の人間である限り、矢張り、假令、金殿玉樓に飽衣暖食は服みませずとも、せめて衣食住は足りねばなりません。それが、恒産を有

天

する似而非宗教家ならいざ知らずです。一身を捧げて、神や佛に奉仕する宗教家と云ふ靈的な天職にたづさはつてゐるものに、何等財のあらう道理はムりませぬ。それに物價の上げ下げは、宗教家であると云ふても何の達慮もなく押し寄せてくるのですからぬ。却々難事ですよ、それで私は團栗の中には大木がある。災は内にありと云ふ意味から、思想界の取締は思想家其の生活の健全にすることが、先決問題ぢやと誰か云つた説に尤だと手を擧げ度いやうな感がしてならぬのですよ。ハ、ハ。

そりや、貴兄、随分今日の社會は先程も申した通り財界の動搖

天 坊

によつて世智辛くなつて、増々腹の空き切つてゐる方も階級の如何を問はず澤山出来るやうですから、かうして腹が空くだけ、思想界の空氣は日一日と悪化して行くのでせう、此意味に於いて、今の貴兄の仰せには確か一つの眞理があるやうに思はれますね。

さうでせう。

私の方でも口でこそね。貴兄、却々難事ですよ。物價が騰貴したからつて、信徒に御供の増額を要求する譯にも行かず、だと申して増額してくれぬからと云ふて、萬更同盟罷業や、怠業をやるわけにも行きませず。殊に貧の底に陥ち切り、貧の底に神

やどると、叫ばれ自ら家財を他人に施して教を説かれた教祖を雛形手本として行かなければならぬのですから、各自の因縁を自覺して通つてはゐますものゝ、此の難問題を解決し、切り抜けてやり切るものは少ないのですよ。併し、貴兄の宗派は、此の問題には。私の方よりは、比較的樂らしう思はれますが、如何です。

坊

そりや仰しやる通り、比較的樂でしやうが。併し、此頃僧侶間に、感胃成金とか云ふのが出来て、是れを又仲間の者から喰しく羨しがつてゐるのですから否になりませぬね。

天

そうですか、仕様のないものですね。併し、我國の數ある宗教

の中には、宣教師、教會擔任者に、一定の報酬を出すことに制定せられて、それを實施してゐる宗教も、澤山あるやうですね。それは、衣食足ぬ時は、たとへそれが宗教家であらうとも、人間としての弱味に怯やかされて、信仰を挫折することのないためには、好い方法であるかも知れず、衣食住に、右顧左眄することの憂ひがなく、精進出来るかも知れませぬ。然し、是れも一利一害で、精神事業といふものは、どうしても。之れに報酬觀念を興ふるときは、其の聖職の本質を忘れて、形式に墮する傾のあるものです。たとへば、宗教家といふものを、一個の職業視してしまふ弊がある、そうすると宗教は一の商賣道具に

過ぎなくなるので、すれば宗教家としての聖職は何處にある、宗教の實は何處にある、救済の本義は何處にある、神や佛を賣り物にして、我が生くる道は何處にあるのかと尋ねたくなりますわね。それに、どうも我が天理教では、布教を一の職業視したり、又名のためにしてゐるものがあるかも知れません、教會のための布教や、傳道の名を藉つて、自己のためにする布教師もあるやうで、今日我が天理教に三萬餘の布教者がありとするも、この布教者の何れもが、果して眞の聖業即布教に従事しつゝありや否やを、私は常に疑問としてゐるのです。それで私は常に筆と口で布教を一の職業視するならば、むしろ、もつとく

坊

生産的な職業を選べばよい。又、名譽地位のためにするならば名利の觀念は捨つべしと教ゆる、宗教家を速やかに止めて、他に趨るがよい。自己のためにする布教傳道ならば、一切の自己を没却せよと説く、宗教を離れるがよい、と喧しく言ふのですけれど、それも行かぬもので。さうですとも、併し、貴兄の方は、未だましですよ。私の方なにか、そりやお話にならぬのです。何時でしたか、某新聞に、職業的宗教家てふ標題下に、今日の僧侶のことを、身、僧籍にありながら。世人に止惡修善の道を説き、精神の慰安を與へ、信仰を得さし、幸福を増進せしむる等の事はてんに、棚上げに

して葬式法事の外は、徒らに高臥安逸、貴重の月日を圍碁、茶花、雑談の遊伎戯業に過し、甚だしいのは、朝夕の勤行すら猶ほ且つ怠る輩も掛くない云々、此のやうな意味で、滔々流布されてあるのを見ました。其時には私も有繋癪に障らぬでもムリませんでした。どうも痛言に相應しい行ひをやる仲間のあるのですもの、いくら癪に障るも、事實は終に事實、一の事實は百の詭辯を勞するも、尙ほ能く之を抗する事は出来ないのですからね。勿論そうですよ。今日の僧侶は前申した通りで、感胃成金を夢見てゐるのですから、社會から一個の埋葬屋に過ぎぬとか、寺堂の守衛だとか、何んと叫ばれても、僧は三界の大導

坊 天

師なりとすましたものですよ、彼等の連中に、君は社會の寄生蟲だねと言ふて、御布施を出して御覽、自ら潛伏、渴仰の頭を俛れて御布施を頂きながら、頂いた手で御布施の按摩をやつてゐますよ。彼等は寄生蟲の言葉も御布施に氣を取れて、何れ人天の大導師とでも勝手な聞き方をしてゐるでせうよ。困つたものですよ。アハ、皆が皆とも云へませんが。まさかそんなこともムリですまい。そりや、事實ですよ、まあ、貴兄も何れよく大和地方へ行かれましやうが。あの貴兄の御本部に近い、奈良へ行つて御覽。奈良は御承知の通り、我國佛教初期の隆昌地として當時我大和民

族の上に咲き盛つた信仰の花の餘薫は、千有餘年後の今日、尙昔乍らの山河と共にです。諸種の美術や建築の上に。萬古の光りを傳へまして。言はず語らずに、有智無智老若男女の靈性を引き付け、之を訪るゝ巡禮者の益々多しのはまことに奇しく又尊き事と思ひますがです。それに、此尊い舊都に住んで、現に其地の佛教を司りつゝある僧侶の現狀はどうです。お話にならぬのです。何れの方面から見ても、何等の捉る處がないのです。只、至る處、死んだ空虚の洞々として横はれるを見るだけです。奈良には、現に各宗を併せて寺院の數約五十、僧侶の數約百ほどありますが。量に於ては必ずしも多いとは言はれま

坊 天

せぬ。けれどもです。其過去の佛都を司り、千有餘年前よりの信仰の餘光に生きつゝある點に於ては、其責任決して小なりとせずでせう。それに彼等の多くは、只伽藍佛堂の守衛として、それから得らるゝ自然の收入に衣食して、道も修めず、信仰も語らず、傳道もやらず、この世智辛き世に只空々寂々として、醉生夢死しつゝあるのです。此一例で頂くことが出来ませうね私はどうしても慨かすには居られないのです。御尤です。

殊に甚しいのは、世には老衰者の再び青春時代に返つた例がないと云ふ勝手の所に理窟をつけて、それと同じやうに一度全盛

天

時代を過ぎた、宗教宗派は、再び其頽勢を挽回することの絶對に不可能なるを信じて、自暴自棄する宗教家があるのですからね。堪つたものじやありませんよ。何れ奈良の佛教徒は、此種の觀念に囚はれてゐるのでせう。

それは古い貴兄の宗派としては御尤ですよ。此新しい私の方にも。貴兄のお説までも極端ではないやうですが。どうも貴兄の方の卯位には確に位する癖があるやうです。信仰の日の淺い道を専門に通つて居らぬものには勿論ありませんが、比較的大な教會の擔任者や役員の中には、どうも朝夕のお勤や神饌位を關の山として、教會の火鉢に高貴い炭をうんとついで、「炭つき

坊

ましたが有り難い。等と神樂歌の作り變へをやつてゐるものも一寸くあるやうですし、殊に慨はしいのは此頃の青年の氣風です。是れも一概には申されませぬが。どうも、親からの信仰で、長らく教會で客年をして居た者が、何れも摺れ枯した氣障な風のあるやうで、勿論習慣化された信仰に、何の感激もなく、其日を送つて來たのですから餘義のない所もあるのですか、彼等をして此まゝにして置きますと、お社の神主底抜の人物になりはすまいかと、私は常に彼れ等を見ると、堪らなく私の神經を刺戟するものですよ。

貴兄の方は未だく前途のあることですからよろしいわ。

天

いや、天理教は今は大事の所なんです。先程、貴兄のお話の中に、一度全盛の時代を過ぎたものは、再び其頽勢を挽回するとはできませんからとて、自暴自棄する僧侶があるとか申されましたが、若しもお話の通り、此種の觀念に囚はれて、努力の元氣を少しでも缺けるものがありとしますれば、大な迷謬ですね、盛者必衰の理は、只物質界相對界を司配し得るだけで、此司配を破つて、衰い者をして盛な者とすると共に、盛な者をして、益々盛な者たらしめですね。萬人萬物を驅つて、其眞生命に燃えしめるのは、是れ宗教獨特の神秘力であると云ふことを心得ぬから、かやうな下らぬ觀念に囚はれるのでせうね。貴兄。

坊

そりやさうですとも、併し、知らずにやつてゐるのには教へ價もありですが、よく知つて居て、改正すると云ふことをせぬ者位、手に合ぬものはムりませぬで。

天

御尤です。私の方でも、純な信徒はそれこそ眞面目に、殊勝な態度で教祖の教えた道を、眞直に進んで行てくれますが、どうも専門家に脱線するものが多いやうで困るのです。教祖の教えもせぬことをやりたがつて困るのです。現に教會内部に、信徒の奪ひ合ひ、傳道地の争ひ等の、聞くも忌はしい紛争が、往々にして起るのですよ、之れといふのは、布教傳道といふものを、一の職業視して、教會のための布教、即ち自己のための布教と

いふことにのみ没頭してゐて、宗教家の聖務は、神意の現成といふにあることを忘れて、徒らに、信徒を増すことのみ心急いで、神の心を地上に現出するがための布教傳道であるといふことを踏み潰してゐるからだ。私は信じてゐるのですが。其弊害として、教理を解せず、精神のアヤフヤなものをも、強て教會へ引き入れ如何はしい布教師に仕上げるから、人靈の救済は愚か、教紀を紊し、延ては天理教全體の名を汚すやうな行爲をするものさへ輩出るので、而もお道の將來を負うて行かねばならぬ、青年布教者が、一時は教會生活と、信仰生活の矛盾に眞面目な信仰を持つて、信に生さんと一旦は誓つたものが、實

坊

際教會生活に入ると、一たまりもなく、大勢の抗することできぬのを知つて、かしくも、豹變し、妥協して安易としてゐるのは、寔に苦々しいことですよ。

いや尤ですよ。併し、貴兄の方は、そりや言へば多少の癖はありませんが、信徒の奪ひ合ひ、傳道地の争ひ合ひ等の起るだけ、未だましですよ、佛教の方を御覽なさいな、私は今日の佛教各宗に於ての、一般僧侶の心理状態を観察しまして、凡そ之を二つに分けることが出来るやうに思ふのです。一は自己所屬の宗門に興味を持ち、居常宗門を問題としつゝあるもの、今一つは、宗門なるものに、何等の興味を持たず。只自己の一身一

家の生活のみを、問題としつゝあるもので、而も此中の前者に属する者でも、真に宗教的動機から、宗門を愛するのではなくして、只自己の一身一家の生活上の手段として、宗門を利用し宗門を踏臺にし、宗門の甘味を吸ひながらあるに過ぎぬのです。それで一朝宗門の中に、自己の生活に利用すべき何物をも認むることが出来ぬ場合は、忽ちに宗門を怨み、宗門に敵し、若しくは宗門に對して、無關心の態度を執るに至るのです。假りに今日の僧侶から金を絞らんとするには、先其虚榮心を衝くにありです。一體僧侶は世間でもてぬ丈けそれ丈け、一派内で威張りたがる癖があるのです。即ち寺格班庶色章は、僧侶の

天

生命をなしてゐます。教學といひ慈善といひ公益のためといふも、實は彼等には、風馬牛のみです。必ずや其虚榮心を煽るに非ずんば、以て彼等の血を湧かしむる能はずです。それですから賦課といひ、寄附といふ、其方法の何たるやは、究極の問題では彼等には無いのですからね。堪りませぬよ。まあ今日の僧侶は、畢竟真に宗門を思ふ者は少なく、只個人主義的に、自己の生活をのみ是れ憶念しつゝあるの徒を以て、充滿してゐると言へましやうか。

貴兄の方も、そんなものですか。ようまあ、自己と言ふものに囚へられたものですね。さうして自己に囚へられれば囚へられる

程、苦しんで行かぬばならぬことを、他人に教へてゐるお互宗教家でありながら、……よし神でも佛でもない人間である以上、如何んな生活を營んで居る人でも、それ相應な、苦みはある事と思ひますけれど、現代の宗教家の持つやうな強い深い苦みは、他の人々のとても窺ひ得ない事ではないだらうかと思ふと言ふた人がありますが、世の常の人よりも、平安で苦みの少ない生活を營むべき筈の宗教家が、他の人々よりも、大きな深い苦みを持つて居るとしましたなれば、何んと言ふ皮肉な矛盾した事でせうけれども、それはどうも事實だと思はれますね。高い理想に向つて突進しつゝある、眞の宗教家としての生活には、無論

天 坊

世の常の人の知り得ない苦闘のあるのも勿論ですけれど、それは苦闘しつゝも、尙心の底に一つの平安があります。其平安があればこそ、凡ての事に恐れたゆまず。理想に向つて驀進する事が出来るのだと思ひます。けれども所謂現代の宗教家の苦みと云ふものの中には、それとは全く違つた意味での苦惱がある。丸でねじつけられたやうな、苦惱の中に住んで居るかのやうに思はれる事がありますね。

勿論ですよ。

一體、宗教家の思ひ患ふべきは、生活の問題ではないと思ふのです。宗教家と云ふものは、物質を人に與へるものでなく、精

神を與へるものでせう。それで私は、寧ろ、我が救済の精神の萎縮枯渴にあると思ひます。神や佛の心を世に現はす事に、奉仕する我が精神が枯渴するから、生活上の缺乏も出来てきて苦しまねばならぬのだと思ひます。世の常の人は「信心は徳の餘り」とかいつて生活上の安定を得て、はじめて信心はするものと云ふてゐますが、宗教家は其の反對で、信心定つて而して生活の安定があるので、昔の人が「道心に衣食あり」といふてゐますが、私は「信心に衣食あり」といひたいと思ひます。勿論、自己のためや、名利のためにする布教者のやうに、布教を一の職業としてゐるものゝやうに、衣食の安定を得るを前提

とした、信心の堅固さでは、神や佛から淨財と云ふものゝ與へられやう筈はない。どうしても、宗教家といふものは、此の神や佛が、吾々を生すべく與へられる、淨財に依らなければならぬと思ひますが。併し乍ら是れは、たゞ「信に生くるものゝみを受くの資格を持つてゐるので、あのキリストも「汝等何ぞパンのために思ひ患ふや」と言ふてゐますし、我が教祖も又「通るに通れぬところは、神が連れて通る」と教へられてあるのは、此點だと思ひます。眞實、神や佛の意志の此の地上に、現成にいそしむ神や佛の使い者を、天の見殺し給ふ筈が何處にあるかといふ堅固な信心は飽迄もしつたど握つてをらねばなら

ぬと思ひますかね。

坊 そりや、其通りで、我が親鸞上人も、「念佛は主なり、衣食住は次なり」と教へられてはありますが。

天 併し、こゝですよ。宗派の盛衰の離れ目は、……私は、事實に於て確な證を握つてゐるのです。最もよく神意を生かし、信仰に生きてゐる教會は、最も盛大でありますし、常に人意を先きとして、教會經營そのもののみ没頭してゐる教會は、發展しないのです。

坊 そりや。さうでせう。さうなければならぬのですが、併し、私の方では、前申します通りで、どうも、信仰に疲れ切て、

親鸞上人の仰せ言も、僧侶達が勝手に、「念佛は次なり衣食住は主なり」と焼正してゐるのですからね。信徒の方々も氣の毒なものですよ。

天 左様ですか。そこ迄さしてゐますかね。……さうすれば未だく私の方は、嬉ばねばなりませんね。未だ天理教ではそりや中には如何しい者もありませうが。先、大程の上に、教祖が「通れぬところは神は連つて通つてやる」と云はれたことを信じ、ならん中通れぬ中を、神一條の精神もつて貫くとき、そこに通ずべき天來の一道がある。これが天理じやと、假令又、神命を行ふがためには、荒野の果てに、野垂れ死しやうと、いふところ

ではない、一切衆生を苦しみの巷から救済せんがために、五十年の生涯をば、今日一日はといふ日もなく、通られた教祖、更に二十五年の壽命を縮めた教祖の雛型を懐ふとき、奮然として心躍らずには居られないと云ふ、信念を持つてゐる者も少なくないやうで、是れ等の人のやる仕事は、それこそ世の常の人から見れば、なんと危険なことをやると驚く位な事をやつて、平氣なものですよ。言はゞ此信念を持つた人達に依つて、今日の天理教も出来、將來の天理教も出来るのだと思ひます。まあ一例を擧げて申しますと、天理教の是れ迄の布教法ですがね。教祖は、學者金持後廻し、谷底へ落ち切つて、その中からハイ

坊

と這ひ上つて來なければ、駄目だと教へられたのです。こゝはなかくやり難い所ですが、確かにやつてのけたことは本教の發達史が物語つてゐるのです。勿論救済そのものには、上流も中流も下流も學者も金持もない、縁ある衆生から助け切るのが本分で、一寸一寸、此頃本教で、上流布教とかいふ、いゝ名をかつて、高貴富者に阿ねつてゐる布教者もあるやうですし、高貴富者を良い信徒が出来たと、布教者間に喧しうそれを賞めるやうな傾向もあります。私は未だく谷底救済をせなければならぬと信じて行てゐるのです。

貴兄の方には、實に感心してゐるのです。元來宗教は、貴兄の

方のやうに、民衆の手になければなりませぬもので、民衆を生かし、民衆を救ふてこそ、始めて、宗教本来の意義があるので。現に我が佛教が、その創始に於て、又我國に於て、鎌倉時代、戦國時代に名僧によつて、弘布せられて、盛大を極めたのは、佛教そのものが、民衆のうちにあつたからであります。それが次第く民衆の手を離れて、貴族に移りてゆき、終には浮世離れた貴族の玩弄物となつて了つた時に、已に衰亡の徴があつたのであると思ひます。今日の佛教界に於ける教學諸般の事業運動で、盛運に向ふべくして而も萎微振いませず、内容空虚で充實を見んのは、其原因する所、少くないですが、昔

から 因習によつて、僧俗間即ち僧侶と民衆との隔りを融合して、兩者の障壁を除き去ることの出来ぬのが、有力な原因の一つである。云ふことを、切實に感ぜずには居られませぬ。即ち僧侶と信徒とが、佛教護持大法宣傳の目的使命を達せやうとする上に於て、同じ信念の基礎に立脚し、衷心から協力して事に當らうとする自覺がなく、僧侶は教化者、信徒は被教化者で、僧侶は計畫を起し、且つ實行する者、信徒は之を翼賛して、資金を寄附し、盲目的に追随し來る者と、所謂僧俗兩者の間を別け。大小の宗教事業に對して、信徒をして頼らしむべし、知らしむべからず的にして、佛教を以て、僧侶階級の獨占のやうに

天

振舞ふ結果、佛教徒の事業運動が、現代に生活する多くの信徒の思想感情と、脈絡貫通しませぬから、社會との交渉を缺いて、實際的の勢力がなくなりますますから、従つて、教化の目的を達することが出来ず、龍頭蛇尾に終らぬと云ふものが殆ど鮮いので、そして此弊は、頭の化石せる老朽僧侶だけではなく、教界に於て新進教家と稱はれてゐる者の間にも、依然、僧俗隔歴の因習を踏襲して、眞に衷心を披瀝して信徒と共に、教界の經綸を謀り、信徒と提携で進まうとするのを躊躇して、兎角信徒に接觸することを臆却がる傾のあるのは、遺憾に堪へないのです。併し、此頃は貴兄の方も、諸種の新計畫を試みられて、何んと

坊

なく氣分が緊張してゐるぢやありませんか。被選舉權要求運動等つて。

仰せの通りで、そりや此頃は、多少の團體的社會的計畫を企圖とするの風もありますも、教育事業と云ひ、傳道事業と云ひ、政教關係問題と云ひ、時局對應の運動と云ひ、如何にも規模狭小、内容貧弱で、人心を動かすに足る者なく、孰れも行詰りの状態にあるのですよ。

天

それでも、随分大な計畫でなか／＼盛んにやつてゐるぢやありませんか。殊に眞宗はどうも盛んらしいですね。

坊

併し、駄目です。佛敎各宗の中で、眞宗の如きは昔から在家宗

を以て稱せられた位ですから、僧俗の區別比較的に緩和せられて居りましたけれども、信念の退轉いたのと、色々の弊害とに依りまして、僧俗隔歴混亡と云ふ特色を失ひ、次第に理想に反する方面に向つて、逆轉するに従ひまして、其事業運動に生氣を持たなくなり、實社會との交渉から、遠ざかりつゝあるのは見遁がすことのできぬ適例だと思ひますよ。國民の公論に基かざる國家の政治が、腐敗墮落を來たし、民心を繋ぐことが出來ぬと同じやうに、官僚に比すべき僧侶が、獨り佛教の進運を壘斷し、信徒を疎外にし、信徒を奴隸視して、傲然教界に號令をかけやうとするやうでは、教主釋尊の教旨に違背し、宗教信念

天

の枯渴を物語るものでありまして、此陋習を廓清して、眞に精神的同朋の自覺信念の上に、僧俗てふ囚はれた妄執から、脱せなかつたならば、佛教の興隆を期し、國家社會に寄與することは、到底不可能ことだと思ふのです。此の點については、貴兄の方は感心ですな。

いや、私の方は仰しやる通り、布教傳道には、前申す通りで、教祖は身は里人にして心は仙人たれ、即ち里の仙人でやり切れと仰せられた通り、一切の自己を捧げて、他人の難に赴くとき、其人は豁然として、神の御前に至ることが出來ると云ふ、信念の上にやつてゐる者は、比較的が多いので、どうも枝先さ

の教會の擔任者や布教者の中には、所謂里の仙人、そのまゝをやつてゐるのがあるのですよ。朝も夕も粥を食い續けて、今日も粥、明日も粥、是れで教會と云ふのですつてなんて、戯談を云ふて一生懸命、お助けに運んでゐるものもあるのですよ。こゝろ云ふ見上げた信仰生活は、どふも比較的上の教會や、教師には見當らないやうですけれども、兎角、布教熱には、未だ下火になつたと云ふ程の傾向もないやうです。けれども團體的社會事業にかけては、それこそお話にならぬ幼稚なものですよ。何分本教は、教祖は個人助けから社會救済に向ふやうに教へられたのだと、それに未だ年限の淺いと云ふ上から、無理のないこと

坊

でもありますが、併し餘り教會内部の事業に重を置きすぎて、此頃ちよいと社會から叱言を頂戴せぬでもないし。又教會内部にも、此教外發展の思想がだん／＼頭を上げかけて來ましたから、是れからぼち／＼行るでせうよ。

いや、其の個人的布教に重を置かれる處に、天理教の天理教たる眞價があるのです。個々の人心の救済は、遂には世界救済を實現するものですからね。併し、時勢の推移と云ふことも考へにやなりませぬが、貴兄の方では、昨今講演傳道を喧しく盛んに行り出したぢやありませんか。

天

何分申します通り、私の方では、心の道、胸の道と教へて、概

坊

して文書傳道、講演傳道を何んもなく輕んじ、個々の膝詰談台の御取次ぎを以て、布教の唯一法と致して來ましたことが、久しい間であつたのですが、時勢の推移に伴ひまして、本教も稍や荊蕀の道から、脱して細道に出ますや、先づ一名一人の匂ひ掛けから進みまして、所謂お話しと云ふて人を集めて説教をするやうになりました。然し、これは未だ講演傳道と云ふ程のもので無かつたのですが、明治四十年前後から、講演傳道が各地に於て、試みるやうになりましたのです。又此頃路傍講演をぼつ／＼やりかけました。

貴兄の方では、文書傳道も始められてゐるやうですな。

天

いや、此方は未だお話になりませぬ。併し故前管長公が、確か明治二十四年の冬だと思ひます、當時我國の文運も未だ緒に就いたのみで、印刷刊行物の左まで發達して居りませなんだ時代に、夙に文書傳道の必要なることを觀破せられ、萬難を排して「道の友」と云ふ雑誌の刊行を企畫せられました、爾來、我教内に於ても、講演傳道、文書傳道 相伴うて發達して參りまして、今日に及んだのです。丁度今は本教も、世界の大幅機に伴ひ、傳道上の一轉機を劃しまして、大伸展を試みんとするの新刻限に到來したのですから。是れからだん／＼面白くなるでせう。併し、讀書力は未だ／＼幼稚なものですよ。

坊

左様ですか、併し、御承知の通り、元來信仰と申しますものは、筆舌の業でなく、心から心へ相傳すべきものですから、昔から宗教は、不立文字教外別傳とも又言詮不及意路不到など云ふてあります通りですから、是れも考物ですよ。

左様ですね。

天 坊

貴兄の方は、昨今俄かに海外へ手を延したと云ふぢやありませんか。

天

はい、未だく駄目ですよ。そりや、世界一列平地に踏みならす。とか、唐も異國も一筋道とか申しまして、抱負はなか／＼大ですが、今では漸く外國と云ふのは支那の一部分と西比利

坊

亞、米國のある一地方だけのことで。

それでも、英京ロンドンへ何時でしたか、布教師を派遣したとかで、大騒ぎをやつてゐたぢやありませんか。

天

ありや、どうやら失敗でしたやうですね。

天 坊

海外布教と云ふことは、なか／＼六ヶ敷からね。

天

併し、私の方では、此頃此海外布教を喧しく、本部始め一般が騒ぎ立て、朝鮮滿洲に布教管理所や、教義講習所を設けて、大に奨勵してゐますから、餘程見るべきものがあるらしいです。

坊

實に貴兄の方の布教振りには、どの方面から見ても驚きますね。

熱のあることには……。併し貴兄の方では、教師でなくとも、殊に二三日以前に道を聞いた位の人でも、すぐ教を説き廻つてゐるぢやありませんか。實は京都で、私の所の極隣家の店の奥さんが、感胃で閉口してゐると云ふのを耳にしたのが、三四日前ぢやと思ふてゐたに、私が床屋へ参りましたら、一生懸命に天理教のお話をやつてゐるぢやありませんか。私も不思議な思が致しましたので、心安さに任かせて、奥さん甘いですね、もうそれなら大丈夫行けますよと、からかいますと、戯談仰やるな、私未だほんの此度の感胃から御手引に預つたで、ほんの素人ですけど、自分の御恩報にこうして運ばして頂いてゐるので

すよ。と申しますのを聞いて、私驚き入つて了つたことがあります。實に感心ですね。あゝして貴兄の方では、すぐに教師になれるのですか。

天

いや、さう云ふ譯のものでもありませんが、實は、我教祖は、「他人を助けたら我身助かる、助ける理が助かる」と教へられてありますので、我身を助けて貰ふと思ふたものはどうしても他人を助ける心となつてかゝらねばならぬと云ふ、信念の上から、あゝして、解らぬながらも、教へを説き歩くのです。こうして他人を助け度いと思ふて、話し掛けるのを匂ひ掛けと申しまして、天理教では唯一の祈禱法と云ふてもよい位に重じ

天 坊

てゐるのです。こうゆうふうにして、其信徒の信念を進めて行つて、そして、授訓と云ふものを頂かすのです。

授訓と申しますと。

はい、授訓と申しますと、まあ何んといふてよろしいか。耶蘇教の洗禮、真宗のお剃刀、浄土宗の五重相傳、まあこんなものとても云うてよろしいか。併し、洗禮や、お剃刀、五重相傳は、他人を助けませぬが、此授訓と云ふのは、一名お授けと申しまして、助一條のため、吾々人間の古郷であるといふ大和の本部、即ち御屋敷へ神が現れ出て、不思議なる力を以て、人の靈肉を助けてやらうとの思召から、此道を聞いてから盡し三

坊

年連三年勤め三年と道の爲め勤めさしてから、それ／＼上級教會の順序を経て、本部へ歸へし、歸るイヤ參る度びに、一席づゝ別席と云ふ静な所で、純教理を本部員から聞かし、こうして九度こう云ふことをして、始めて神様から人を助ける徳を御授けになるので、こうゆう順序をへた者を、授訓者とも教徒とも云ふことになつてゐるのです。

さうしますと、授訓者になるのは前後凡十年かゝると云ふ譯けです。

天

いや、時勢の推移ど、救濟の急務等の爲めに、餘程樂に大任することゝなつてゐます。併し、是れに依つて、天理教は生きて

ゐると云ふてもよい位いですが、外の事には、色々と勝手な
こともやる先生もありませんが、是ればかりは、なかく喧しい
のです。

坊 是れと、教師とは又別でせうね。

天 はい、教師と云ふのは、教師任用分限規程によつて、一定の檢
定試験を受けるか、六ヶ月天理教校と云ふ學校へ入るかせなけ
れば受けられませぬので。

坊

まあ、さうですか。元は金でやつたやうでしたね。

天

左様、昔は樂でしたが、獨立後はなかく六ヶ敷うなりまして
ね。其檢定試験と云ふのも、中等以上の學校を卒業してあるか、

判任以上の官吏であつた確な履歴がなれば、受けることが出來
ぬのです。天理教校と云ふ六ヶ月の方は、每期凡五百五

十名以上入學を許すことになつて居りますが、何時も満員の様
子です。此頃は教學部と云ふのも出來、女學校、中學校と云ふ
都合で、却々教育に重を置きまして、青年教師には、高等教育
を受けた者も餘程澤山出來ましたよ。

寺院と教會、教師と僧侶

坊

さう云ふ都合でしたら、却々澤山の布教師なり、教會があるで
せうね。

天

さうです。まあ、傳道を専門に勤めてゐる教師は、凡二萬人を

超えてゐませうが、之れに未だ教師の資格を持たずとも、前申した教徒として布教に従事してゐるもの、教徒の總數凡十二萬人の約一割と見ましても一萬二千人はありませう。教師と之れと合して三萬有餘は働いてゐるでせう。教會の數も確實なことは申されませぬが、凡まあ四千二百でせう。が併し、偉大ものですよ。統計表によりますと、明治二十八九年頃と、明治四十二年頃には一ヶ年に三百ヶ所以上の設置認可を地方廳から受けてゐますよ。此頃で平均一ヶ年に百五十ヶ所内外でせう。但し是れは地方廳認可の分だけです、教廳認可だけで、地方廳は失敗に了つた分はなか／＼そりや多大なものですよ。

坊 偉大いものですね。その日々増加して行くと云ふ教會は、どんな資格のものですか。

天 まあ、教會としては、最下級の者が多いやうで、名稱は宣教所と申しましてね。凡信徒を百戸以上結成して、それから規定に順じて、出願するのですが。なか／＼面倒なもので、教廳もそりや樂には認可しませぬが。地方廳と來たらより以上骨が折れますよ。

坊 京都に大教會と云ふなか／＼立派な教會がありますが、ありや—

天 あれですか。あれ等は、まあ最上級ですね。勿論本部は別です

坊

が、天理教では、信徒一萬戸以上は大教會、五千戸以上は教會、二千戸以上は分教會、五百戸以上は支教會、百戸以上は宣教所、となつてゐるのですが、そりや色々ありまして。宣教所と云ふても三四百戸以上もあるのもあれば、三四十戸關の山と云ふのもありますよ。上の教會と云ふと、皆部下にそれくの教會を持つ事となつてゐますから大教會と云ふても、十萬戸以上も信徒を有してゐると云ふ解に當つてゐる教會もあるのです。

貴兄の方では、甘く組織が出来てゐると云ふことですが、いつたい教會と云ふものは、……

天

さうですね。先づ本部のことからお話致しませぬと解りませぬが、あの本部の所在地には、甘露臺と云ふ一定の場所があります。すが、あれはなかく喧しいので、あの地のことをお地場とお屋敷とも申して、あの地は、所謂人間始めた元の地場であつて、立教天保九年を過去に遡ること九億九萬九千九百九十九年の昔、あの靈地に於て、伊弉那岐命と伊弉那美命とが月日兩柱の神、即ち國床立命、面足命の精を受けて、夫婦の固めをした場所であると教へ、かうして人類最初の肉の故郷をもつて人類最終の靈の故郷と教へられてゐます。なぜ天理教ではかう教へるかと云ふと、今日迄の所謂、道德的宗教、倫理的宗教の

みでは、到底感情の奥底から、神と人とを結合し、人と人とを結合する力がないからで、それで人類に最も因縁の深い屋敷に人類に最も因縁の深い人間、即ち教祖は、伊弉那美命の更生と云ふので、此者の魂を引寄せて、天地創造人間創造の原始的事実を説明してもつて、神と人と人ととの干關が眞の親子兄弟の干關であることを知らしめて、さうして神と人と人ととの間を、家族的に結合せしめんとするのであります。それで天理教では、此の自然の要求に依つて、地場中心主義が生れて、一大教理となつてゐるので、此地を動かすことの絶對出來ぬ中心地として、こゝに教祖の最も明白に教へられたる「どうでも信

天 坊

心するなれば、講を結ばないかいな」と云ふ遺訓を基礎として、教會本部を設置し、是れが攝理者には、教祖の血統を以て世襲することとし、本教立教の主旨即ち助け一條を本願とするのです。所が此本部一ヶ所のみでは、時代の推移に伴ひ、且つは救済の急務なる所からと尙取締の必要上各地方へと、教會を認可することとしますので、教理の上から申しますと、部下の各教會は、それ／＼順序によつて、此の御屋敷、此甘露臺即ち本部のち出張所であると共に、助け場所と云へるのです。なか／＼深い眞理があるのですね。随分面白くてきてゐるのですよ。「屋敷から打出す言葉は、天の

言葉である程に云ふ、此屋敷から出る言葉を、一日でも先きに早く聞いた者を、理の兄とし、始めて教へてくれた人を理の親として、慕ふて行くことになつて居りますので、屋敷を中心として、最初布教をせられた人を根本として、各、それからそれへと丁度、木の茂つて行くやうに、本部を根として、枝から枝へと發達して來たので、云へば大教會は一の大きな枝と云ふ解で、是れが又家族的になつてゐて甘く行くのですよ。宣教所が支教會を親と見て孝心を盡して行くこと云ふ都合で、それ／＼次から次へと上を親とし、又下を子と見て、殊に又其各の教會長と云ふのは、各其受持つてゐる教會へ親教會から、出張

してゐる理と信じて、萬事のことを行つてゐるので、上へ上へと力が入るので、又各親へ盡す心がなかつたならば、御屋敷の理を受けることができんので、どうしても教會の隆盛を見ることができませぬ。それで天理教では、此順序の理と云ふことを喧しく云ふてゐます。

坊 さうしますと、先の教會からは、本部へはなかく遠い理に當る教會はできませんね。

天 勿論、さうです。此の順序を運ぶので、御屋敷の深い理を頂くことができると思つて、不足を言ふ者はありませぬよ。併し、まあ教會干渉を一口に申しますと、地方制度の上で、本部は

坊 天

政府、大教會は府縣廳、分教會は郡役所、支教會宣教所はまあ役場と見ればよく解りますね。

よく解りました。左様ですか。どうも甘く發展する筈ですね。併し、貴兄の方は、偉大したものでせうね。期限は古いですか。寺院、僧侶の数は、どの位ありますか。

坊 天

左様ですね。全國に介在する寺院の總數は、先づ七萬二千有餘と、其他境外佛堂が、三萬七千五百餘でせう。そして、其住職者は、五萬一千二百餘と、住職でない者が、數萬人あるやう記憶してゐます。

天

なか／＼偉大したものです。

坊

いや、ほんの數字の上だけです。組織と云ひ何んと云ひ、貴兄の方と、てんに比較になりませぬ。是れでも、各宗の高祖は、皆それ／＼研究して見ると、甘くやられてはあります。併し、一口に寺院と謂つても、其の性質は宗旨に由つて、決して一様には考へられぬもので、若しこれを、古今變遷の跡を辿つて尋ねて見ましたら、其の初めは、孰れも他の神社祠堂を一般祭祀の場處、祈禱の場所従つて、又參拜の場所であつたのでせう。それが中頃は寧ろ學問所たり、修業所たる様に成つた所も、少くはないやうです。そして更に一步を進めると、説法をし布教をする處となつたのもあります。夫の眞宗などは、即ち

此の説法布教をする處となつたと云ふてもよいのですが、併し、今日は兩本願寺を始真宗諸本山では、説教布教の爲めには別に總會所と云ふ風のもの設けられまして、肝腎の大師堂や、阿彌陀堂の方は、寧ろ一種の祭祀殿か參拜所であつて、彼の真言宗の御影堂とか、日蓮宗の祖師堂とか、乃至禪宗の佛殿など云ふのと何等擇ぶ所がない様です、現に京都の東本願寺の大門には堂々と真宗本廟なる額を懸けて、得意がつて居りますそんな事をしますから、遠國門末の者も、只管上京して、御真影を拜することを競ふ様で、真宗の本來の立場から見たら、甚だをかしいことになるのですよ。真宗の某大家が、曾て、本

天

願寺參りの徒輩も、其の心術は、他の北野詣の者と五十歩、百歩の相違に過ぎぬのが多く、そうして寺門當路の人達も、亦頻に賑々しう參詣を譽め立て煽り立て、群參團參を奨勵してゐると、苦笑されたのを耳にしましたが、實に方今は、海陸交通の便だん／＼と開けて行くから、本願寺參りのお上りさんは、益々繁昌を加ふる様であります、併し、是れが又極新しい教育を受けた、知識ある階級の間にも同じやうに、賛成を得るかどうかは一個の問題であらうと思ひますよ。さう致しますと、真宗の方では、本來は祈禱の祈願のと云ふことには餘り重きを置かぬらしいのですね。

坊

そりや、貴兄、信心一天張りの眞宗ですからね。それで、此の立場からすると、宗教上の設営は、必ず一個の教會であるべき筈で、そして教會の教會たる所は、又全く平民的で共和的でないければならぬと思ひます。教會には素より何等宏壯の大建築は要らない、何等金壁朱欄の目目を眩く祭壇めいた設備は尙更らこのことで、既に平民的であり、共和的でありますれば、住職の法主のと謂ふ風の者があらう筈はなく、會員中先覺者が自ら推されて、牛耳を執るか、さうでなくば、又然るべく人を外から招聘しても好からう。さうしさへすれば、眞に信仰を同じくする者、相聚つて愈々研鑽し、佛恩の高大なるを喜び合ふと共に、

天

又視疎相扶けて善行を勵むべく、終には近頃西洋でやつてゐる社會的教會も出來る様に成らう、今後の宗教界はどうしても斯の教會の方に進まねばならぬ筈と思ひますが。そりや、御尤ですが、少し御説が新し過ぎる様に思ひますね。今日の場合、信仰には私は儀式と云ふものも、確かに必要すべきものだと見てゐます。少し古い言葉ですが、「信は莊嚴より起る」と云ふこともあるのですから。

坊

そりや、世界の實際はと云ふと、今猶ほ靈佛の何のと、參詣祈禱の徒輩は甚だ多いのみならずです。先塋の位牌のその又年忌追善のと、封畿的祖先崇拜の遺風は、各々檀那寺に特別の注意

を拂ふたり。眞宗などでは、住職さへ矢張り、本願寺住職の型に模するのが、學問徳行の實價よりも、何は何でも血統のボンチを有り難がる風があつて、眞宗眞實の風儀は、復た措いて顧みない有様だと謂ふても強ち過言ではないと思ふのです。即ち眞宗の寺院は、今や、一個の參詣所であり、且つは小領主様だと云へませうね。それから眞宗以外の各宗でも、例の妻帯の關係上、漸く此の眞宗の世襲的家風を眞似やうとし掛つて居る所もあるやうで、彼等はかうして、子々孫々相繼いで堂守となり慕番どならうと企てゝゐるのですからね。かう云ふ次第ですから、今日の場合、私の云ふ所の教會組織を以て、寺院制度に代

坊 天

へんなどは、固から急にやれることでもなし、さうやと申して、寺院以外に別に教會を開設して、それが父果して甘い工合に維持せられて行けるかどうかは、問題ですしね、困つたものですよ。

そりや、どうも思ふやうには行きませぬもので。

お話になつたものじやありませんよ。今日澤山な寺院の中には、貴兄ね、偶に雲突くやうな本堂と、長い庫裡とが、並立されてあるのを見て、直ちに微笑み感心しちやなませぬよ。それでは餘りに皮相の管見ですよ。何故ならばね。それは此處には堪へ得ぬ重荷だと嘆しぬいてる、雨漏り堂傾むくの寒態に逢眸ぬ

前の微笑みだからですよ。又其の寒態に逢眸ふたならば、何人でもこれでは、お住職様もその訝怪を其胸にするでせうが、疑ふてはなりませぬよ。戸を叩けば、奥から出て来る五尺大の御主人に出合ふことが出来ます。驚ずに居れませぬでせう。貴兄此の背景、此の色彩の裡に、猶ほ此の人のあらうとはですぬ。然も尙ほ能く喰ひ、能く放れて、檀信徒の前のお辭儀は、忘れませぬで、何れ此のお辭儀ある許りで、危なつかしい命脈も能く保持て行かれるのでせうよ。癩に觸るのはそればかりではなく、小吏員の前へ出て、唯々といや／＼ながらに動いてゐることですよ。人天の大導師であり、思想界最大權威者たるを自

坊 天

覺した、宗教家であつたなれば、何を苦しんで、へこ／＼頭を下げるばかりが能と云へませうか。吾等宗教家は、其の反對に彼等を行使し、利用して國家をして、十全を得しめねばならぬの特權が付與されてあるのではふりませぬか。さうでせう。又其の特權を圓滿ならしむる處にのみ、活ける宗教の生命があり、その神髓があるのだと思ひますよ。左様ですとも。

世界の人も、よく注意してゐると見へて、「此頃の坊さんは、俗より出で、俗より俗なり」と、云ふ人があるのですよ。併し、少しこれは酷評と思ひます。何故なら、僧侶の風俗が、他と共

つて居るから、少しく悪いことをしても、他の觸目を著しくする内の弱さがあるからだと思ひます。又た僧侶自身達の心も、一に此處になければならぬことで。其の異つて居る弱さは、即ち強い處で、それは吾等僧侶をして俗者から超越せしめ、身を以て周圍を教化するに便ならさうが爲めの佛陀が、御心ではなかつたでせうか。それをし忘れて、徒らに僧服を嫌忌い、俗服に戀々して醜行に便ならさうとする、陋劣な心事に至つては、全く沙汰の限りです。所が是れが此頃「あなたはあなた、私は私、死んだ時には拜んで上げませう、」的の情力傾向となつて、それが遺憾ながら、今の宗教家間の到る處に、實現されはすま

天 坊 天

いか、恰度彼の父祖の情力に由る資産によつて、己れは何のこともせずして、一生を空過するも目出度い人と、何等異つたことのない、悪臭を隨處に齎らしてゐる悲惨さね。貴兄、そりや、貴兄、此問題にかけては、貴兄の方ばかりやありませぬよ。私の方でも、大同小異ですよ。

いや、貴兄の方のやうに、信念の燃へ盛つてゐる最中には、かゝる醜行のあらうとは、どうしても信じられませぬね。

御尤、御説の通りで、勿論、信念に生きてゐる者には左様のことはムリませぬが。眞の信仰に生ることができずして、教會生活の煩雜と、俗務に意地を屈して僅かに狭少な地を見出して、

心なくも老廢的な屈從生活を送つてゐる者や、祖父の盡した理に、戀々として教會にダニ的生活を送る卑怯の徒等が、ちよいと儲晴しにやつたものがあつたとか無かつたとかでね、そりや、ごうも油斷のならぬものですよ。才華爛發、辯舌爽快、舉止閑雅であつて應接丁寧に、情趣溢れ愛嬌零るばかりで、此の鹽梅では、屹度到處善男善女の隨喜渴仰を得るは請合と云ふ、良布教師でも、それが餘りに親切が過ぎて、赤い信女が、ぼてれん講に加入する迄の御教導をやつた人もあるとかの、醜聲外に漏れたことも、私の學生時分に聞かぬでもなかつたですよ。ハハ、、、何分多數の中の事ですからね。

坊 左様か、驚きますね。アハ、、、貴兄の方は、大丈夫と思ふてゐましたに、どうも、

天 どうして……貴兄、そんな事をやる者にかゝつたら、まるでお話になりませぬよ、こんなことをしたのも、何かの困縁でせうよ、と絶念めをつけたり、未だこれらはましで、甚いのは、教祖が忘れてはならぬと云ふて、朝夕神前で「夫婦をこしらへきたるでな、これは此世の始めだし」つて手眞似迄して教へられだからだ等と、勿體ない、勝手の戯談を言ふてゐるもの迄あるのですから、堪たものぢやありませんよ。

坊 甚いんですね。何と、私の方にも甚いのがありますよ。未だく

より以上ですね。現に、何日ぞやの新聞に、「滋賀縣で住職が老女を斬る」と云ふ表題で、同縣の伊香郡の寶林寺とか云ふ寺の住職の某と云ふ男が、人妻と姦通しゐたのを、ある老女が、言ひ觸らしたのを怒り、其の一家を殺害して、自分も自殺しやうと鋭利なる小刀を持つて忍び入り、先づ老女に斬り付けて、重傷を負はせたので、大騒ぎとなり、住職は隙を見て遁げ出し、自坊に歸り本堂にて咽喉を掻き切り自殺を遂げたと、恰々しく載せてあつたぢやありませんか。かうゆふやうなことが、ちよい／＼見當るのですよ。何分多數の僧侶の中のことですからではありますやうが、どうしたつて、世の先覺者たる宗教家として

天

は、一人でもかやうなことをする者があれば、吾々一般の遁れることの出来ん問題ですからね。困つて了ふぢやありませんか。併し、どうもです。先程の貴兄のお話のやうに。世界の人は、吾々宗教家の道德的缺陷を攻むるのに、尤も峻嚴酷烈ですね。普通人ならば、容易に看過すやうな、小失細瑾のことでも、彼等は、寸毫も容赦なしに、直ちに、天理の先生の癖にとか、天理さんでもとか云ふ條件を附けて、罵罵嘲笑し指彈排斥するのが通例だからね。酔ふべく造るれた酒に酔つたと攻撃せられ、惚れるべき美人に惚れたと難ぜられ、少々過激な言論をしたと言ふては、物議をかもしますしね。例へ善行嘉言がありました

坊

も、當り前さ、天理さんだもの、先生だもの、會長様だもの
と帳消にする、洵に一寸考へますと、割の悪い役目に廻された
ものです。併し、こゝが宗教家の世界から見留められてゐる
處だと思ひますと、餘りに嘆す譯にはいさませぬわね。

左様です。世界の人も、宗教其のものを、嘲笑排斥するのぢや
ありませんが、何分、先程も話た様に、宗教家にして宗教本然
の使命を忘れて、在俗者と同じやうな事をし、同じやうな精神
でゐて、殊に宗門を踏臺にし、宗門の甘味を吸ひつゝあるに過
ぎぬと云ふやうな、宗教家が多いやうでは、仲間内の吾々です
ら、百萬の寺院も、墓石の行列ではなからうかと疑ふ位ですか

天

らね。世界の人から少々の非難位は勿體ないことぢや、高祖先
生等のお蔭だと、嬉ばねばならぬと思ひますね。
左様ですとも、信徒のことを善男善女とはよく云ふ言葉です
ね。ハハア——

坊

今日、佛教の發展せぬのは、勿論ですよ、それで私は、現今の
寺院を目視して、心の悲しみの現はれんとして、「宛ら肺病患
者が薬餌と看護のお蔭で、どうやら餘命を繋いでますと言つて
るやうだ」と申して見度いのです。今一つ儲に、あの神嚴な森、
凌空の堂宇、吁、そは全く昔の寝物語ではなからうか、と、ア
ハハ——

天 殿いすね。あまりに。

坊 さうですよ。又言葉を換へて言へばです。今日の佛教徒は、佛教衰頽てふ薪の現實へ、佛教湮滅てふ油の理想を振注ぐやうなものだ。それで何處に、世の木鐸たる覺醒を以て本然とする宗教家の意義があり、價值がありませうかね。貴兄、

天 併し、さう悲觀したものでありませんまいよ。彼等にしまして、も、今やつてゐる眞我の要求も、時の流れと共に高まつて来て、最早此上如何ともすることのできぬ底の狀態に陥るるの日は、必ず到來するでせう、そして、彼等の個人主義的生活が全然破綻して、あはれ没落の悲運に沈む時こそ、即ち彼等が初めて人

坊 間としての生活に、浮び上り、心の底から眞に同胞を思ふ愛情の一點の湧出し來るべき時であつて、宗教生活の第一歩は、正しく茲に創まると思ひます。かうして宗教生活の第一歩は、即ち團體的生活の第一歩であつて、眞正な宗派の原形は茲に成つて、生ける布教傳道の事業は、亦正に茲に創まるだらうと信じます。

天 御尤ですが、そりや前途遠遠でせうよ。アハ、ハ、ハ、

兩教の觀たる婦人問題

天 話は妙な所へ飛んでしましましたが、貴兄の方は、此の女性をどう云ふふうに見てゐるのですか。僧侶の妻帯論つて、随分喧しい

坊

ぢやありませんか。

是れですか。此問題は、現代諸宗のまあ共通の大煩悶でしてね。元來これは浄土宗を初とし、それより以前、及び以後に於て、立教開闢せられた、佛教諸宗が、獨り眞宗の一派を除非した外、何れも祖師以來姪肉禁制を以て修道の要件とし、僧風の正規としまして、此宗禁を徹底せんが爲には、獨り宗内の制裁を以て、満足しませずして、更に國法にすぎりて迄も、其保護を求め、其干渉を仰ぎ來ましたのは、皆さんのよく知らるゝ所です。即ち教義教相の異同如何に關しませず。諸宗僧侶の獨身生活は、それ／＼立教開宗の精神に本具します生得約束でありまして、

維新以前に於きましては此約束は、恰度宗禁と、國禁との二重の制禁によつて、擁護せられてゐましたけれども、元から此兩者の其性質に於て著しい相違のあるのは、素から論を俟ちませぬ。それで宗禁は佛身生活が、宗門の生命を維持するからの本質的一面なるを標榜して、之を固守しやうと致しますし。國禁の方は、強ち獨身生活其者の意義には立入らぬけれども、偶宗門を保護せんとする時代の政策上、其宗門の規定までも、其儘法律的に權威あらしめたと云ふに外ならんと思ひます。それで國禁の存廢によつて宗禁の意義と權威とに、何等の影響も動搖も及ぼさないのは、論を俟たぬことではありませんけれども。只

坊 天

國禁の撤廢が放逸無慚の墮落僧をして、無遠慮に宗禁を蹂躪せしめ易いのは、必然火を睹るよりも明であるので、丁度明治五年でしたか、諸宗の僧侶に對して、「自今以後肉食妻帯等勝手たるべし」との新令が出ますや。

明治五年でしたかね。

それで福田行誠と云ふ人は、淨厨豕肉に穢れ佛室産血を流す、護法の天鬼之を怒るのみならず。大小の檀越皆地に唾して、毀譽せざるはなしと痛憤して、各宗管長の連署を以て切に政府に對し新令の取消しを嘆願しました。けれども元來政府の措置は、今更僧侶の肉食妻帯を是認するの、希望するのと云ふこと

はなく、只政教分離の當然の結果、これまで特別に與へ來ました、國法上の保護干渉を撤去し、宗門の僧風の如きは、一に其宗門の自治に任すの意に外ないのでありますから、時勢後れの嘆願の素から當路の採用を期待することの出來をうな筈はなく即ち又、確か十一年頃と思ひますが、内務省の布達で、「妻帯勝手たるべき公布は、従前古來の所業を禁止した國法を廢しただけのこと、決して宗規に關係之なき譯である。」との意味の布達があつたのです。これから考へますと、政府は僧侶の妻帯に就て、國禁は之を撤廢した、けれども、宗禁其者は、何處迄も之を尊重して、少しも其領域に立入つて居らぬことになるので

言ひ換へて見ますと、佛教諸宗派が、宗祖立教の面目に就て生れ替つた程の、大革命を施して、堂々と其次第を天下に宣言することがない以上は、國家及び國民は、矢張り立教以來の僧風を以て、其宗門の僧風を認め、若し之に違犯するの徒があれば、墮落の徒と呼ぶの外、更に正當の途がないと云へるのです。これや一つの理論ですげね。

成る程、よく解りました。併し、貴兄の御意見はどうです。承り度いものですね。随分面白いでせう。

坊 いや、それでは、今一喋舌やりませうかね。私は、強ち昔のやうな「籠山の清淨生活を送れ」の「絶対に肉食妻帯してはいか

ぬ、』のと言ふのぢやないのですよ。併しです、自分自ら肉食を捨て、妻帯を斥けた抑制が若もなく續けられました、僧侶たるの面目が立派に保持して行ける者がありとすれば、それ程尊く、それ程喜ばしい事はないと思ひます。けれども、傍から強ひての禁制は、其の人に墮落を訓へ、倫落の破れを強ゆるやうなものではあるまいかと思ふのです。何故ならば、それは、神佛でない人類の已む可らざる本然の性であり。且つは欲求ですからね。要はです。妻帯しやうと、肉食しやうと、其の現はれた愛あり、誠あり、天地の公道、宇宙の大生命に逢着するも、何等内に慚ることのない、宗教的貢獻であつたならば、立派な偉大

坊 天

な宗教家と言はねばなりませぬ。其の凡てを配與しあるに拘らずです。攀柳折花、紅怨紫恨裡に、其の身の何たるやを知らぬ様な人々、六ヶ敷です。ね。

解りますよ、よくね。

爾ら云ふ人々が、若し有りましたならば、それは、絶対に弾斥せなければなりません。が、若し、田舎邊りの檀信徒で、故もなく無妻論を纏々する者が假りにもありとしたなれば、それこそ、時代を知らぬ没分漢であると言ひたるのです。いくら僧侶だと云ふても、人はやつぱり人であるかぎり、情もあり泪もあるものです。まして今日は、如何な深山に坐つてゐても、何千

萬里先の事件が、すぐ瞭々と收腦されるやうな重寶な世の中ではムリませぬか。従つて、誘惑は誘惑に連續して涯しがない、かやうな現代の世相裡に、人類本然の欲求を捨てよ、と言ふのは、人をして、「石膏像たれ」「木像になれ」の冷めたさを強ゆるやうなもので、それは恰度流るゝ水を堰とめやうとして、却て其の反撥則充溢から受ける被害の度の、如何なにかを豫想する盲擧と同一ではあるまいか。ね、貴兄、愛の異性に流れることが、人間已むを得ぬ本然の欲求であると同時に、水の低きに流るゝのは、これ又た争はれぬ、天地宇宙間の法則。その流れ／＼して、或は田を濕ぼし、或は車を廻して。農民を賑はず

のに、何の憚りがありませうか。唯だ、洪水てふ名目下に、宅地を流したり。汎濫てふ標榜下に橋梁を浚つたりするの悪戯さへせなかつたならば、吾等につつて、誠に有り難い川様でなければなりません。其の所謂「悪戯除に則ち蛇籠があつたり、堤防があるのと同じことで、或は出で、亂倫となり、或は隠れて盗となるてふ人生への、悪戯除に則ち倫理があり宗教があるのでは、ムリませぬかね。さうでせう。それで與ふべきもの、總てを齊與して、懐胎發露された純淨無垢の滋味に、佛陀の御心その儘を迎ふて、其處に培はれ、育まれた、則ち慈愛に充ち満つた、熱烈な宗教的情藻と、道に違つて居らぬ、眞摯な

坊 天

倫理的行為から、迷へる民衆を訓へ導き、そして常に天下の木鐸となつて、世に寄與し貢獻する處があつたならば、それこそ、萬人に取つて、誠に有り難い、宗教家様でなければなりません。さうでせう。今は形式の時代は往つて了つた時ですからね。随分長たらしいことを失敬しました。

いや、御高説面白く拜聴致しました。左様かね。併し、貴兄の方は、全然佛教の方とはどうも異つてゐる様ですが、どんな都合なのですか。

天

はい、此問題については、目下我教界内でも、色々と喧しう申してゐるのですよ。天理教の教義は世上紛々の婦人問題を料理

坊

すると云ふ第三者的の考へ許りではなく、實は天理教教徒が、教義に體感し、心得した婦人をどう観て、どうゆう様に對應すべきかと云ふ、人間的事實に印して、深刻な考察であらねばならんとかね、天理教徒も人間であつて、其の人間の集團の中には、男女の兩性が含蓄されて性を如何に理解し、讚仰しつゝあるかを陳述して、文化奉仕の一端たらしめようとするのは、人間として極めて當然な行業であるとかね、色々の見解から口には筆に論ぜられてゐるのですよ。

天

左様か、何所も同じですね。併し、貴兄の方の純教理の上からの御高説を承つて見度いものですね。

天

天理教の純教理の上からと申されますと、どうしても、我田引水的の嫌ひは免れませぬけれどもね。

それは結構です。貴兄の方の信仰を拜聴したいのですから。

さうですか、先づ天理教では、元より男女兩性の自然の生理的乃至心理的の差別を認めます。けれども、其れが爲めに、兩性の人格的價値、即ち人間としての價値に、何等の差別を認めないのです。即ち、教祖の天啓に「此の木も雌松雄松の隔てなし、如何なる木も月日おもはく」と云ふのがあります。是れが、天理教の先づ兩性觀です。蓋し此の世界は男一人の世界でもなければ、女一人の世界でもない。男女兩性抱き合はせの

世界であるのです。それであるのに、今日迄の宗教、哲學、倫理、道徳は男性もしくは女性を本位として、恰度他を其の屬性のやうに考へて來たやうです。これは大な誤りだと思はれるのです。何故なればです。此兩性は各々獨立した性でありまして、何れが正でも、何れが負でもないからであります。殊に大な誤は、此の重大問題を、恰かも鄙陋な問題のやうに考へて、口に上すことを耻ぢて來ました。これは兩性觀の幼稚な爲めでありませう。何故なれば、男女兩性の問題は、聊かも耻づる様な問題ではなく、實に人生の最も重大問題であるからです。天理教が其の聖典、御神樂歌の劈頭に「地いと天とを豫りて夫

婦を造しらへ來るでな、これは此の世の始め出し」と喝破してゐるのは、最も痛快なこと、云はなければなりません。單に其ればかりではふりませぬ。御神樂歌の隨所に「夫婦揃ふて日の寄進」とか、「二人の心を治めるよ。」とか云ふて、特に夫婦と云ふものに重きを置いたのは、餘程重大な意義を含んでゐるのです。早い話が、男性と云ひ、女性と云ひ、各々人間の半身であつて、其自身では完全な人間ではない、恰度貝の兩殻のやうに相集まつて始めて完全な人間を造くる、従つて社會の完全なる單位は、個人でなうて夫婦でなければならぬと思ひます。それで夫婦をもつて社會の分子としますれば、個人は原子とも云ふ

坊

べきものであると思はれます。天理教が特に、家庭に重きを置くのは、此處であります。さうですけれども、私の一寸調べた處では、基督教を除く他の宗教は、夫婦と云ふもの家庭と云ふものについて、餘り重きを置かなかつたやうに思はれますがね。御尤です。殊に佛教の如きはさうです。此の自然にして最も神聖なる眞面目な問題を排斥するの傾向をもつてゐたので、これは人生問題について、未だ徹底しなかつた證據であるでせうよ。

天

貴兄も御同感ですか。

坊

宗派の如何によらず、眞理は矢張眞理ですものね。

天

併し。基督教の方ではね。「元始に人を造り給ひし者は之を男女に造れり。是故に人父母を離れて其の妻に合ひ二人のもの一體と爲るなりと云へるを未だ讀まざるか。然ればはや二つには非ず。一體なり、神の合はせ給へる者は、人これを離すべからず。」と云つて、両性生活の意義を、明言してあるやうに記憶してゐますが。併し、其教祖たる基督自身が、獨身生活で終つた爲めに、此の言葉は完全な効果はなく、従つて澤山な獨身者を續出するに至つたでせう。それで私は、餘り勝手な考へ方から知りませんが、私は、此の間にあつて獨り、天理教が従來の宗教が、何れも解決することを耻ぢて來た、両性問題を捕へて、

天 坊

其の中に重大な人生の意義を發見したと云ふのは、天理教の最も進歩した文明的宗教である所以ではあるまいかと考へてゐるのです。それで私は、凡そ國家社會の文明の程度を計る一つの標準は、兩性關係を見るにあるので、其の間の治まつてゐる國は、文明であつて其の間の亂れてゐるものは、野蠻であると思ひます。

御尤です。

それで、天理教では兩性間の關係を、嚴格に規定してゐるので、其れは男一人に、女一人と云ふ、純一夫一婦主義でありまして、元から一概に天理教徒と申しましても、因縁によつて此

の理想に合すことのできないものがあるかも知れませぬ、けれども其れは、天理教の標準道德とは、何等の關係もない。又不品行は男の働らさど云ふやうな、習慣を楯に此の兩性道德を破壊するやうな者があつても、天理教の標準道德とは何等の關係もないので、天理教の男女兩性の標準道德は、其れ等の風俗や習慣を超越して、飽く迄も一夫一婦主義であります。今日では法律も進歩しまして、やゝ一夫一婦に近い形式はとつて來ましたが、未だ一般の社會では、此の正當な道德が行はれてゐないやうです。そのこれを行はしむるには、何うしても宗教の力、信仰の力に待たなければならぬことと思ひます。けれども、從

來の宗教は、兩性間の自然の關係を破壊するものがありましたも、これを制止する方法を知らなかつたやうです。これは一切の不自然、即ち罪惡に對して下る自然の制裁を、解釋する能力がなかつたからだと思ひます。けれども、天理教では神の定められた兩性道德を破る時には、神の怒りが如何な形式を藉つて身上事に表はれて來るかを豫め知つて居ります。これ從來の宗教よりも、一層大なる道德の把持力を有する所以であると思ひます。これは單に男女兩性間の關係ばかりではなく、神と人との關係に於ても人と人との關係に於ても同一であります。凡て天の定めた人倫の大道を破壊する時、其れに依つて身上もしくは事

坊

上に自然即ち神の制裁の下ることは、男女兩性間の自然の關係を破壊した時と同一で、唯其の表るゝ形式に於て差があるだけだと思ふのであります。遠慮もなく勝手なことを申しましたが、私はかやうに信じてゐるのですよ。御尤です。將來の佛教はどうしても、そこ迄行かぬと駄目だと私は思ふのです。けれども、貴兄の方は、異つて前申した通りで、眞宗の外は皆祖師以來姪肉禁制を以て、修道の要件として居るのですからね。併し、だんくど革新はして來ませうが、何分祖師立教の面目があれですから、貴兄の方にや追附け

らせれよ。

大本教の批判と天啓者の價値

天

一時なか／＼偉い勢でした綾部の大本教も愈々此頃大々的の
檢舉に會ふて、出口淺野其他の幹部が多數拘引されて、大變弱
つて了つたと云ふことぢやありませんか。

坊

どうやらさう云ふ噂ですね、新聞記事に依りますと、まあ殆
全滅のやうですね。

天

もう少し底力のあるものかと思はんでもういけませんでしたが、
案外脆く一切の正體を暴露して、今日ではなつた醜狀ぢやあり
ませぬね。

坊

左様ですとも私は大本教の今日あるは自然だと思ふのです、何
分、今日の時節にあの怖しい大袈裟な豫言や、胡麻化し文句を
公然、然も大々的に宣傳して世間を欺き信者を愚弄して、國家
の基礎を紊し諸外國との國交に悪影響を興へ、或は恐れ多くも
皇室の尊嚴を冒瀆するやうな事をやつたのですもの、當局とし
ては黙過し難い事態に陥つたので、世間では當局としての手の
下し方が後れたとか、何んとか色々云ふやうですが、是れには
當局としても却々容易ならん苦心をしたやうです。

天

左様です、當局の眼は早くから光つてゐたのですつてね。なん
でも昨年臺灣總督が其の布教や宣傳を嚴禁したと云ふことでし
たね、随分まあ過激極る出鱈目を喋舌つて、ようあすこまで猛

烈な宣傳運動が、然も此の内地に於てよくやれたものだど吾々でも一時は思ふた位でしたからね。

坊

さうでしたとも。どうも私は最初にね大本教と云ふものは、謎に始つて謎に終るものぢやないかしらと思ふてならんことが度々ありましたよ。

天

さうですね、新聞記事を見ますと謎のからくりが一切發表してゐますが、併し、随分、現代としては變つた猛烈なことをやつた團體で、そりや貴兄、私の京都等へは一時度々長髪團がやつて来て、大々的の宣傳運動をやつたものですよ、一時はどうなるのか知らと思ふ位な勢を示しましたよ。

天

さうでせうね、そりや京都は近くですから、私は神戸で驚かされたことがあるのですよ、私も二三年前から大本教にはちよいくゝ氣をつけて新聞や小冊誌も見てゐましたが、實は餘りのことに驚されたのですよ。それは忘れもしません。一昨年の四月の六日でした。私は教用で、神戸に其時分は滞在してゐたのです。丁度其時、大本教の長髪團が、神戸にやつて来て、大々的の宣傳運動をやつてゐる最中でした。そして、其日の午後一時から湊川の娶樂館で、大講演會を開催してゐましたので、私も一寸窺いて見ました。所が、館内満員の盛況で、長髪を逆立て、數百日の後には、世界を對手に日本との戦とが始ま

る「天變地異は大正十一年に起る」など、怖ろしい豫言を眞向に、「世の立替立直」を交々立つて、獅子吼するので、聴衆は煙に巻かれておましたよ。そして、「米國と戦つて勝てるか」との演題のもとに、若い男が既成宗教家の職業的なのを難じ、困難の近きにある事を絶叫して、「其時こそ飛び来る飛行機の襲来も鎮魂の術でバタリ／＼とうち落す」などの怪氣焰を吐いた後に、どうやら基督教の牧師上りのやうな、風平した男が壇上に顯はれて、「末世と基督の再臨」と題して、馬太傳二十四章を朗讀して聖書に依る基督再臨説を述べ、佛法の豫言も、基督教の豫言も、其末世を救ふ神人の再臨は證明されてゐる。それが即ち、

此の日本、然も丹波の綾部だと、遂に綾部へ引寄せられるのですよ。續いて、「文明の根本的批評」とか、「一大國難來る」とか「憤火口上の帝國」とか云ふ題で、なか／＼皆元氣なものばかりで、よくまあ、彼所までの出鱈目の極端なことを、臆せず、やれたものだ。信仰の力の偉大さをつく／＼感じながら、私は聴いておました。所がです。貴兄。丁度、辯士が、「大正十一年は世の立替へ立て直し世界最後の日が来る。其時日月も暗く、星は落ち天は振ひ地は動いて、世界の大多數が絶滅する。然もそれは數百日の後だ」など絶叫すると、突如演壇へ聴衆中から二名の洋服と前垂掛の日蓮宗信者が、跳上つて「果してそれに相

天 坊

「違ないか」となか／＼元氣よく、喰つてかゝりましたのです、其時は實に痛快でしたよ。

そりや面白かつたでせうね。それからどうなりましたか。

色々と押問答をやつてゐましたが、結局、水掛論になるからと

云ふので、大正十一年迄、一年半待つて其上豫言が適中せぬ曉

には、此日の辯士は、何れも、日蓮宗へ降参する事若し適中せ

ば、我々が大本教に兜を脱ぐと、話が附いて、無事散會するこ

とは致しましたが、一時は力が入りましたよ。

坊

左様でせうね。どうも、時々さういふことがあつたらしいです

ね、何日ぞやも、松江か鳥取でも騒しかつたらしい、確か其當時

天

の新聞で見たやうに思はれます。

さうでせう、それは或は自然かも知れません。何分、今日の時

代にあの有様ですから！ 併し、熱心なものですね。

坊

そりや、なか／＼の熱心ですが併し。あのやうな馬鹿氣たこ

とに、歸依する人の氣が知れませぬ、あゝゆふことが盛にな

るだけ、我が思想界の惑亂を來すことかと思へば、實に寒心の

極、根本的に抹殺する方法はないか知らんと思はれてなりませ

ん。

天

高遠な信仰に生きる者の、責任の大なることが思ひやられます

ね。

坊 御尤です。大に吾々の考へねばならん所です、實は幸ひ近く

の京都に居つたものですから、果して大本教の眞髓が、何處にあるかを研究して見度いと物好きにも、二三の同志と一寸研究をやつて見たのです。二三年前から。

天 左様か。そりや面白かつたでせう。

坊 併どうも大本教の成り行きは吾々の想像してゐた通りになつて参つたやうに思はれるのですよ。

天 さうです、研究と云ふ程のことをして居りません私でも、どう

坊 も思ふてゐたやうになつて來た氣がするのですから。どうも先方の連中の熱心には感心なものですよ。

天 左様です併し、あの豫審調書を読んで見ますと巨頭王仁三郎

はなつてないぢやありませんか。

坊 さうですね、どうもお話になつたものぢやないですよ、あれで

も一時は世界立替の大豫言者を氣取つて、あの方の主幹として立つた者かと疑はずには居れませんよ。

天 信仰と云ふ點から見ると、どうも淺野和三郎君の態度の方はよいやうですね。

坊 そりや、そうでせう、何分淺野君は信仰から、あの地位も名譽も捨てしかつたのですから、今日のあの態度は、あゝあるべき筈だと思はれます、それに反して、あの王仁三郎のあの醜態

は、あれも亦あれで別に異様に感じる事もいらぬ態度かも知れませんが。何故なら王仁三郎は最初から信仰を以つたものでなく、神の名を借つて世を欺き人を偽つて地位名譽を求めやうとして、色々の魂膽をやつた下賤極まる香具師的人物でも、常に彼れは自らを大化者と自稱し、不埒の行をやつても、神が大なる經綸の實行を期せんが爲め殊更に世を欺くが爲めの方便だと云ふて、信徒の離反を防いだので、信徒達は「大先生は大化物なり」と云ふ滑稽にも奇妙なる名稱を以て随分無理な諦めをして來たものだと思ふ事ですが。大化者とは誠に適した名稱だと思はれます。この名稱こそ常識ある神の王仁三郎に與へた名だと思ひます。かやうな人物ですもの今日の場合、當惑

して先筆はバチルスだといふて泣き出すのは勿論のことです。うよ。

天 そりやさうでせう、併し、今日になつても未だ信者輩の中には猶迷夢から覺めずに、今回の事件を目して法難呼はりをしてゐるものがあると云ふぢやありませんか。

坊 さうらしいです。何分信仰と云ふものは、實に不思議な力をもつたものですからね。

天 左様ですとも、あの森戸君の筆禍事件で、クロボトキンが喧しく世に出たやうなもので、宗教史の一頁をも知つてゐる大本教の連中に、今度の事件を一つの廣告のやうに信じて、善後策協議會を開いて躍起となる者のあるのも不思議な事ではありません

坊 まいね。貴兄あなた併し、事、不敬罪ふけいざいに關してゐるので、大に反省おほいはいせいせねばな

りませんはね。

天 左様さやうですとも、併し、此度の裁判さいはんは随分興味ずぶんきうみのある問題もんだいで面白

いでせうね。

坊 貴兄あなたの方ほうの松村事件まつむらじけんよりは、より以上いじやうでせう。

天 そりやさうでせう。なんでも大本教おほもとけうでは今度の裁判さいはんは九分九厘くぶんくうれん

迄までは大本教おほもとけうの不利ふりに陥おちるけれども、最後さいごの一部いぶを覆くつがへして勝かつと

云いふ自信じしんを以もつてゐると云いふ噂うわさです、何なんと云いふ氣治きなまめでせうね。

坊 どうやら、鎮魂歸神法ちんこんきしんぽうを法廷ほうていでやつて大に争あはふと云いふ魂膽こんたんだそ

うです。

天

大本教おほもとけうでは鎮魂歸神法ちんこんきしんぽうは信者しんじやを掻かき集あつめる唯一ゆいの武器ぶきとして珍ちん重ちゆうしてゐたと云いふ事ことでしたか、其その鎮魂歸神法ちんこんきしんぽうと云いふのは、随ずい分ぶん々々怪くわい々々の事ことをやるつて云いふ事ことぢやありませんか。

坊

大抵たいていの信者しんじやは皆みなこれで、引掛ひっかつて行いつたのですが大本教おほもとけうではこ

れを神様かみさまから授さづかつた秘法ひぽうだと云いつてゐます。そして、此この神しん

法ぽうを用もちひさへすれば、どんな憑靈つきのものでも、直すぐ正體しやうたいを現あらはすと云いつ

てゐるのです。けれども、これは極きめて拙劣せつれつなる一種しゆの催眠術さいみんじゆつで

ありまして、彼等かれらが見みて以もつて、憑靈つきのものの現出げんしゆつだと思おもつてゐるのは、

天

心理學しんりがく上じやう申まをします所ところの單たんなる人格じんかく變換へんくわんに過すらないのであります。

一體鎮魂歸神法たいちんこんきしんぽうで、大本教おほもとけうが一時大じおほいに當込あてこんだと云いふことは聞き

坊

いてゐましたが、どんなことをするのです。
 さうです。まあ一寸簡單に説明致しますと、先づ信者を、神前に端座させて、両手を組合せ、瞑目させ、それから審神者とか云ふ施術者が、適當な間隔を置いて、信者と差向ひに座つて、最初先づ靜に、三四度、ウーン、ウーンと氣合をかけ、それから一二三四五六七八九十百千萬の十三語を、神代音で靜かに唱へる。即ち、ヒト、フタ、ミ、ヨ、イツ、ムユ、ナ、ヤ、コ、ノ、タリ、モ、チ、ヨロヅ、と云ふた風に、これを嚴肅な調子で、五六度も繰返しますと、信者は次第に精神統一状態に入つて、其の組合せた両手が、徐々に顛へて來ます。する

坊 天

と審神者即教師は、既に神懸りが始まつたものと、認定してね。「お出ましになりましたのは誰方ですか」とか、「お前は誰だ」とか云ふ、暗示的の言葉をかけると、その信者は、「おれは何の何某だ」とか、或は「白狐だ」とか、「天狗だ」とかど名乗を擧げて來るのです。
 そりや狐降しのやうなものです。左様。併し、これは少しでも、催眠心理に知識のあるものなら、一見して一種の催眠術であることが分るのです。そして信者即ち、被術者が、施術者の間に應じて、或は、「白狐だ」とか、「天狗だ」とか云ふのも、決して天狗の靈でも何んでもないので

す。單なる一種の人格變換に過ぎないことが分るので。而も、此の催眠法は極めて舊式の拙劣なるものでして、今でも催眠術屋の中には、被術者は靜に目をつぶらせておいて、或は懐中時計の音を聞かせ、或は單調子なる音楽や、經文の讀誦などを聞かせておいて、人を催眠状態に導いて居るのと、同一の方法です。其方のことを研究したことのある友人から聞きますと、既に其の方法が舊式であるから、従つて其の効果も、顯著ではないらしいのです。第一、時間が長くかゝりますさうで、尤も大本教でも、鎮魂歸神法の時間は、大抵一回三十分間以上を割當て、居ります。而かも其間に人格變換まで、所謂狐だと

天

か狸だとか云ひ出すまでに達する信者は、極めて少數でしたね。見てゐると其の拙劣さは、實に氣の毒な位であります。進歩した催眠術は、覺醒後、被術者の精神に何等の弊害をも残さないさうですが、大本教の神法にあつては、覺醒後屢々思想の感亂を來し、遂には精神錯亂に陥つて、どんでもない亂暴をしでかすことがないでもない様子です。一昨年でしたか、山口縣の某村に起つた事件の如きは、其の一例です。實に弊害の多い恐ろしいものですよ。これを稱して神授の秘法などとは、誠に聞いて呆れざるを得ないので。さうですね。何んとまあ、今日の時代に下らぬことをやり出し

坊

たものですね。併し、なか／＼貴兄は、上手いものです。もうぼちぼち宗旨替をなさつても大丈夫ですよ。アハ、ハ、ハ、

さうでせうね。併し、こう誹してはあの方では生活の安定を計ることは絶対不可能ませんね。アハ、ハ、ハ、

天

結構でした。實に綾部へ、行つてゐるかの感が致しました。併し、貴兄の御説明の中に、教祖の神諭とかの中に豫言めいた分子もあり、又教訓警告の分子も含まれてゐるやうのお話でしたが、何か道義的に人を教導して行くと云ふ點があるのですか。私はどうも過激な豫言の主張が中心をなしてゐる様に感ぜられてならぬのです。

坊

左様ですね、詳細に研究すれば、果してどうかは知りませぬが、

天

どうもさうらしいです。さう致しますと私は、生嚙りの宗教學の上から、出口なほを、どうしても現代の眞の豫言者とも、天啓者とも、認めることは出来ぬ様に思ひます。何故なればです。御承知の通り、今日の時代は正義と公平を特に尊んでゐる時代でせう。すれば云ふ迄もなく、現代のは崇高な倫理道德の觀念を中心として、人を指導して行くと云ふのぢやなければ三文の價値もないものだと思ひます。勿論、豫言者と申しましても、宗教史の上から観ますと、いろ／＼發達進化の跡が存して居るやうでありまして、

幼稚な階級に屬する豫言者と頗る進歩發達した階級に在る所の豫言者と、此の二つが有るやうですが、それは丁度、宗教に天然自然ウブの儘の宗教、即ち其の宗教の中には、倫理道德の考へから觀れば、頗る顔を擧めなければならぬ様な、儀式等が存して居る所の低級の宗教と、それから進んだ倫理道德の觀念から、大いに其の宗教の價値あることを認めなければならぬ所の高級な宗教と、此の二つの階段が有りますが、豫言者に就いても同じ事で、この低級な幼稚な時代にある所の豫言者と、高級な倫理的宗教の時代に現れた所の豫言者との間には、天地雲泥の差があると謂ふて宜しいと考へるのです。それで私は、大

本教のは前者に屬してまるで魔法使や、魔術師のやうなものと、相距る遠からぬ者で、時代に合はぬ山師だと云ふて見たいのです。

天 坊

さうですね。確かに大々的の山師です。

さうぢやありませんか、現代の世態と萬事天地雲泥の差があると謂ふてよい。あの紀元前第八世紀の頃からして、約二百年ばかりの間の大昔に、猶太國、即ちイスラエルの國に於て多くの、アモス、ホセア、イザヤ、エレミヤ、ミカー等云ふ大豫言者が現れてゐますが、是等の豫言者の説く所は、皆倫理的、道德的に考察して、見ても頗る崇高な教であつて、そして神を觀

察するにも、正義と公平と云ふ點から考へて來て、神は正義なものであるし、又公平を愛するものであるからして、吾々も正義と公平に従つて、此の世の中に立つて行かなければならぬと云ふことを、力説してあるのであります。其當時一般國民は、正義に背き、又公平を缺いたやうな事を、國君たる者が、下人民に對して行ひ、富者が貧者に對して行ふといふやうな時代であつたらしいけれども、其の時勢に反抗して、正義と公平の二つを振翳して、一世の木鐸となり、世道人心を率ゐて行かうと云ふのが、古代イスラエルに現れた豫言者の極力鼓吹した教であるといふことが出来るので、かやうに其の説く所は、進ん

だ倫理道德の教によく合つて居りますから、随つて其の言ふ所は、亦精神的でして、肉體の末、物質の上のみ趨るといふやうなことを無くして、極めて精神的の側を重んじた教です。随つて、亦神を觀察するに、精神的でありまして、丁度基督教になつてから、福音書にあらはれた言葉を以て申しますると、どうでしたかね。神は靈であるから之を拜する者は靈と眞理とを以て拜せねばならぬと云ふ意味な教を説き、さう言ふ立脚地に立つて、神を觀察して居りますが、斯う云ふ風な、道德的な教をした豫言者に依つて、イスラエルの宗教は、非常に進歩して、終に後世基督教となつて、其の宗教が現れて來る基を成し

坊

たと謂ふても宜しいので、此の點に於て、イスラエルの豫言者の大きな功績が認められるのであると、私は思ふのです。此の古い時代に於てすら、さうですもの、此の進歩した現代に於て、道德倫理を中心として居らぬものが、どうして一世の木鐸となるの價值がありましやうか。

御尤です。併し、貴兄はなか／＼よく研究してゐらつしやいますね。

天

イヤ、どうして加藤博士の受け賣りですよ。併し、貴兄、昔から大豫言者として認められてゐる者は、皆自分に神が憑託つて、豫言をしると云ふ神の聲が、如何にも強迫的に聞えて豫言をせず

には居れないからして、豫言すると云つた様な、意識状態をあらはして居るやうに思はれます。實は豫言者といふものは、一國の風教の衰へたことを慷慨して、之を匡正せんと圖つて、國王に向つてさへも、手厳しい議論を神の代理としてやつて、風教上の腐敗や、宗教上の誤つた考を訂正して行かうといふ人々でありますから、俗人には非常に受が惡くつて、さう云ふことを言ふと、大變な迫害がやつて來て、所謂「豫言者は故郷に尊ばれず」で、多くの豫言者は或は牢に打込まれ、或は國外に放逐されたと云ふやうな憂目を見て居るのであります。が、さう云ふ事を知りつゝも、神が豫言しろ、豫言しろと云つ

て自分に迫るからして、否でも應でも豫言せざるを得ぬから豫言するので、己むを得ず、不本意ながらも豫言をすると云ふ意識で、豫言をして居るのが、眞の豫言者であるやうです。されば、大本教の出口なほ其人にしても、觀方によつては、是れに類似してゐる點もあるでありませうが、我の考へる所では、數百日の後に起る天變地異で、世界の大多數が絶滅する。其の時には、綾部へ来て居つたら其の難を遁れることが出来るとか、世界を對手に大戦争の起つた時、飛び来る飛行機の襲來も、鎮魂の術で、バタリくと打ち落とすとか、少しも精神的意味の含んで居らぬ、豫言を眞向に振り立て、見ただけでは、どうして

坊

も現代の眞の豫言者と云ふことが出来ぬので、眞の豫言者になると、さう云ふ改作偽造せねばならぬやうな、手品師の如き、狂態を演出とは大に撰を異にしてゐるのは勿論のこと、眞の豫言者と云ふのは、どうしてもです、精神を修養鎮靜して、光明洞徹の域に達し、所謂神明と感接することが出来た者ぢや、なければならぬと私は信じて居るのです。

さうですわね。さうぢやなければなりません。

併し、大本教でも、内村さんの基督再臨説を引張り出したり、佛法の豫言を借つて來たりして、然も、其の末世界を救ふ神人の再現は、此の日本の丹波國の綾部にちやんと現れてゐるの

だ等とそれこそ綾部ぢやなけりやならんやうに、勝手極まることを言ふて、ゐたやうでありますか、これと同じでどうもね。貴兄、私はどの宗派もよくまあ揃ひも揃ふて、身引な排他的であるかに就いて、常に呆れて居るのですよ。さうぢやありませんか、自分の宗派の者でない方はすべて異端者であり。罪惡の徒であるかのやうに思ふてゐる者が。どの宗派にも多いぢやありませんか。

天

さうですね。併しながら、忌憚なく是れを言へば、私は各自の教祖が、自尊的觀念を持つて、立教せられたからではなからうかと考へられる點があるやうな、氣が致しますが如何でせう。

坊

或はさうかも知れませぬね。さうでせう。第一釋迦は、「天上天下唯我獨尊」と言はれて居りますし、法華經に、佛言はく、我世に出現すること、猶大雲の一切を潤すが如く、枯渴の衆生をして皆苦を離れしめ、安穩の樂を得せしめんが爲なり。衆生を安穩ならしむることは、世能く我に及ぶものなし、「云々とかあるやうに思ひまするし、又蓮如上人の御文章に、「みなく心を一にして阿彌陀佛を深くたのみ奉るべし。その他には何れの法を信ずといふとも、後生の助かると云ふこと、ゆめ／＼あるべからず。」と示されてもあるのですから、貴兄の仰しやる通りでせうね。

天

基督は、「我は神の子なり」、マホメットは、「我は神の使なり」言ふて居るやうに、どうも天啓者とか豫言者とか、又一宗を開くやうな人は、無上權威ある神や、佛が宣告するのやと云ふ立場に立たれるのやから、自尊の心を生ずるを常としてゐるやうです。歴史の上から観てもね。

坊

すれば、天啓と自尊とは、離る可らざるものに似たりと云ふ所です。ね。

天

まあさう言へませうね。私の方の教祖も、なか／＼偉大いことを言はれてゐますよ。「よるづよの世界一列みはらせど、胸のわかつたものはない」つて、

坊

えい……なか／＼の大抱負です。ね、萬世つて全世界の人類皆、釋迦も、基督も、マホメット、孔子達も、其中に含有してゐるのでせう。そして一概にね。「胸の分つたものはない」つて、排脱される所、どうも、聖人君子眼中にないぢやありませんか。確に、釋迦、基督、マホメットより、遙かに其上にありです。ね、どうも絶大の抱負です。ね。

天

左様です。そして私は之を以て決して、お笑ひになるかも知れませぬが、自尊に失すと思ふことが出来ないのです。何故なら、我が教祖に、神様は世界最後の理想的宗教を建設せしめんと御思召から、天保九年十月二十六日、教祖が御子息秀司殿の足

坊

痛を祈願せられた際、突然天啓（レベレイション）があつたので
 す。教祖此の天啓によつて、過去現在未來を洞觀し、宇宙の意
 志を知り、宇宙の目的を知り、神が殊に大任を我に命じて、眞
 の助けを成さしむるのであるとの大抱負を以て、世に立たれた
 のですものね、貴兄、此大抱負は申します通り、天啓と共に生
 じたので、天啓を受くる範圍彌廣くして、抱負益大ならざ
 るべからずでね。洞觀益々深くして、開闢以來の人間の蠢動に
 呆れ返へられた途端、舌端に洩れ出された言葉だと信じます。
 すれば、決して自尊に失すと思ふことは出来ないのです。
 左様ですかね。

天

更に一步を進めて、此天啓の語を玩味致しますと、洞觀の際、
 嘆息された言葉でして、之を基督、釋迦、マホメットの、「我は」
 「我は」と仰られた「我」と云ふ言葉でなく、そして主觀的に發
 せずして、客觀的に發しられた言葉であります。それで客觀
 中に絶大の抱負を寓してゐまして、表面何等の自尊を見ませぬ。
 世界最後の天啓者ぢやなくては出来ぬことだと信じます。もし
 てね、貴兄、教祖は次に「その筈や説いて聞かした事はない、
 知らぬが無理ではないわいな」と客觀的位置から、主觀的の
 位置に戻られて「胸の分つたものはない」事の當然なことを示
 されてあるのですよ。

坊

實に寛大な胸臆ですね。釋迦のやうに、無明の酒に酔へりとも仰られず、基督のやうに、罪惡の子とも責めなさらずに、知らぬのが無理ではないと、悠揚迫らず、諄々と誨へて倦まない所は見上げたものです。其態度誠に感心ですね。

天

併し、我田引水のやうですが、我が教祖は、又「このたびは神がおもてへ現はれて、何か委細を説き聞かす」と仰られてあるのです。何か委細でね、昔から天啓を受けられた方は、少ないやうですが、何れも皆罪惡及び禍害を排除したのに効のない方はないやうであります。此理からして我が教祖は、何れの神社佛閣を問はず、之を尊敬すべきことを教へられてゐます。

坊

決して孔子、釋迦の異端、外道として之を取扱ふやうなことはなく、回教、基督教のやうに、劍を以て異宗徒に臨んだり、先祖の位牌を破壊せしむるやうなことは、絶對教へられてないのです、只之を以て、天啓の一部をなすだけだとするだけでありまして、天啓の全部は、我教祖から始まるのだとするので、何か委細と云ふ意味からですよ。こうゆう都合ですから、どの宗派にも、私の教派のやうに、各々随分自尊的解譯のあることだと信じますが、さうでせうね。

さうですとも、何分御承知の通り、私の方は、唯我獨尊主義ですからね。申し上げる迄もないのです。一寸先程申し上げたやう

坊 天

にね、随分ですよ！ 併し、貴兄の方は、何を承つて見ても、感歎敬服の外なしですね。

恐れ入ります。勝手なことばかり喋舌りましてね。

どうして貴兄。遠大な抱負を持たれた、新進な御教の最高真理を、かうして叮嚀懇切に解剖詳説して頂くのですもの。

天

さう仰ますなれば申しますが、實は、私も獨尊的に、獨のみこう喋舌つては失禮だとは感じてゐるのですが、現代の宗教家、學者達は、頻りに新宗教の勃興を望み、或は其資格を列擧して望みを未來に寄せてはゐるやうですが、どうも、我が國に、然も僅々八十年前に起つた、新宗教の天理教を知る人の尠

天

ないのに、常に嘆いてゐます上から、幸に貴兄が、よくお聞き下さるので、今日こそと思ひましてね。御尤です、御説の通り、御希望以上に完備した、大宗教のありを知らぬ人の方は、多いでせうね、併し、此微妙深玄な御教の教理を聴けば、人皆必ずや一驚を喫するでせうね。さうでせう。

世界改造と宗教

先程の話の裡に、大本教では基督の豫言や、佛法の豫言を、勝手に引張出して、それらの再現は、大本教であるかのやうなことを、言ふてゐるといふのでしたが、考へて見ますのに、古

來東西の大宗教家にして、將來必ず眞の救済主が、地上に現れると云ふ事を、豫言して居ないものは、一人もないやうですわね。即ちキリストは、一千九百年の昔に於て、「天國は近き悔改めよ」と云ひ、未來に大審判の日があつて、其の日に至つて、初めて眞の救済を受ける事が、出來ると豫言して居ります。又、佛教には、彌勒出現の説があつて、將來彌勒菩薩が出現するに至つて、初めて眞の救済に接する事が出來ると、豫言せられて居るので、其他回々教にせよ、喇嘛教にせよ、猶太教、婆羅門教にせよ、何れも、神の再來を約束して居ると云ふことですが、確かに、佛教ではさう云ふことがあるのですかね。

坊

詳細には記憶致してゐませぬが、六萬億歳の後に、彌勒菩薩が出現すると云ふことは聞いたやうに思ひますね。

天

さうでせう、私は又或る人から耳に致しましたのに、佛教の方では、正法千年、像法千年、此の二期の末、即ち釋迦滅後二千年なる末法の世に現はれると云ふことですがね。

天坊

左様、さう云ふこともあるやうです。

それで、又勝手なこと申し上げるやうですが、私の方の宗派では、天理大神が御教祖によつて天降り遊ばされたのは、天保九年であるが、其の天保九年は、釋迦滅後恰も二千三百五十九年に相當する、此の時に當つて、天理教の起つたのは遙にキリス

ト、釋迦、其他大宗教家の豫言に適應せられたものであつて、決して偶然ではないと云ふのですよ。のみならずです。教祖の御言葉に依りますと、過去の宗教は總て神が天理教出現準備として、先觸れとしてお出しになつたものである。そして人間と宗教との關係は、恰も身體と衣物との關係に等しく。小供の時には、小供の衣物、大人の時には、大人の衣物を着なければならぬ。今や世の中は大いに進歩發達致しまして、總ての人が大人の時期に入つたので、こゝ迄進んだ以上最早古い宗教では、到底人類を完全に救濟する事が出来ない。そこで教祖は「このたびはもう日がつまりさたるから、ごうもひかえることはなら

んで、「よう／＼こゝまでついてきた、じつのはこれからや」と仰せられ、日柄年限、順刻限が到達したので、遂に眞實の親神様が、現はれて我が天理教をお啓きになつたのであります。それ故、天理教を世界最後の天啓教と申しましてね、現代及び現代以後の世界に生れた人は、此の宗教より他に信ずべき宗教はないと云ふのですよ。

坊

日蓮宗の方でも、法華經に「願くば此功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に佛道を成就せん」とありまして、今に弘宣流布の世となれば、他宗派仆れて、獨り日蓮宗の世界となるとの抱負を懐いて居ります。此の頃又日蓮主義の宣傳とかで

喧しく活動してゐる人もちよいく見うけますね。田中智學氏の天業民報の發刊等ね。

天 坊

田中智學つて毒鼓とか云ふ雑誌を、發行してゐた方でせうね。さうです。あの毒鼓が。いよ／＼發展したとかで、天業民報と號して、日刊新聞として、大に日蓮主義の大鼓吹に任じやうと云ふのですつてね。

天

左様か、皆さうして各々、自尊的の立場から努力するので、社會が向上進歩するのでせうね。そして眞の改造した、理想的の世界が何時か出來上るのでせうよ。

坊

併し、貴兄、此頃は隨分世界改造、社會改造、或は生活改造、

天

曰く何につけ改造といふ言葉を、屢々耳に致しますね。

左様、一時は平和ぢやなければならぬやうに、言ふてゐたのが、昨今は改造々々でね。大阪に改造博覽會迄開催したり致しましたが、私はどうも、これは流行性のもものではなからうかと思ふのですよ。

坊

まあ、さうでせうね。私も此所謂改造運動なるものは、眞に自覺した國民の、衷心からの叫びであるか、何うかは、大に吟味して見なければならぬと思ふのです。それ等は、空虚なる叫びでありはしまいか、附け焼き刃では無いか、或は名を得んとする一二者の行動に對する雷同的動作では無いかと云ふ様な、

坊 天

疑ひを挟む餘地は無いだらうか。世を擧げて改造運動に憂身を
やつして居る。悪く云へば、改造熱に浮かされて居る今日に於
て、冷静に其の間の消息を考へて見る必要があると、信じるの
ですがどうでせうか。

御尤ですね。

それです。此の問題を、今日の社會の多くの人は、どうも、
物質的、外的の問題だと観てゐるやうですが、私はこの改造、
レコンストラクションは、物質的問題でなくして、精神的問
題である。外的問題でなくして、内的問題で、非人間問題でな
くて、人間の問題であると思ふのです。人格を如何に改造する

か、人間の内的生活、人間の精神生活を如何するかと云ふ人間
其自身の問題であると信じるのです。政治的中心勢力が衰へ、
物質的要求が盛に起つて、民衆が生活問題に苦しみまして、其
物質的要求を如何にするかと云ふ時代の一轉換期に際しては、
何時でも甚だしく民心が動搖するもので、此時これを表面から
見れば、恰度、物質的問題かのやうに見える、精神的問題でな
くて、外的問題のやうに見えるが、決して外的問題でも、物質
的問題でもないのです。釋迦が起つたのも、孔子が憤起したの
も、丁度今日のやうな時代で、當時に於ても、或者は社會の法
律状態を整へたら、改造が完成すると云ふたり、或者はまた、

自然の儘に放任したら、勢の趣かんとする處に趣き、平靜に歸するだらうと説いたやうですが、釋迦も、孔子も、之を物質的改造とは觀ずして、内的改造と觀、精神的問題と觀たのです。釋迦の教も、孔子の精神も、皆共に當時に於ける精神改造の叫であつて、人格改造の叫であつたのであります。そして社會の總てが、一大轉換を行ふとする時代に起つた人格改造、精神改造の叫であつたのです。今日は申します通り、社會主義者も、物質論者も、悉く是を物質的問題と觀てゐます。また民衆の強烈に欲求する處も、確かに物質的改造、外的改善であります。かやうな物質的論議の盛んな時代に當つて、改造は精神

的問題でなくてはならないとか、物質的問題でなくて、内的問題だと云つて、道德仁義を説くことは如何にも迂遠であり、平凡である月並の議論の様であると云ふ人があるかも知れませんが、現代は此の迂遠な、平凡な、月並な議論が、さうして有用な議論であると思ふのです。さうでせう。今日經濟論者は、其經濟眼からして、此問題を經濟の問題に歸せやうと致します。固から、經濟的改造、物質的改造も必要であります。唯經濟的改造、物質的改造で、社會や人間が、決してよくなるものでない。さうでせうね。貴兄、今日の民衆に、唯金さへ與たからとて、決して其人間を、其生活を、其人間の形造る社會を、